

資料紹介

郵政資料館所蔵資料概要

井上 卓朗

① はじめに

博物館は、一般的には所蔵している資料によって、「科学系博物館」、「歴史系博物館」、「美術館」などに分類されることが多いが、郵政資料館は所蔵資料から見ると、そのいずれにも属していると言える。そのため設置者の事業経営から発生した資料を所蔵しているという観点から「企業系博物館」として分類されている。しかし、このように雑多な所蔵資料を持つ博物館は他にあまり例を見ない。それもただ広い分野の資料をもつというだけでなく、どの分野においても一級品の資料が存在しているのである。

郵政資料館が平安期の東大寺文書⁽¹⁾から電離層探査ロケット模型⁽²⁾までの多種多様な資料を収蔵することに至った最も大きな原因は、郵政資料館の資料収集のターゲットである「通信」そのものの成り立ちと、その母体となった「逓信省」という組織にあると言えよう。

本稿では、まず郵政資料館の誕生から資料収集の過程を概説した上で、郵政資料館における資料分類から見た所蔵資料の概要を紹介し、資料の分野ごとに特徴ある資料をピックアップして解説することにした。

② 郵政資料館の沿革

郵政資料館は、開館以来「資料の収集、保存、展示、資料提供、調査研究などの活動を通じて郵政に関する文化の普及・啓発を図ること」を目的として活動を行ってきた。

明治35年（1902）6月20日、万国郵便連合（UPU）⁽³⁾加盟25周年記念祝典行事の一つとして、東京市京橋区木挽町の逓信省構内⁽⁴⁾に創設されたもので、創設時の名称は「郵便博物館」（図1）であった。明治38年（1905）、新庁舎建設のため一時芝区芝公園内の通信官吏練習所⁽⁵⁾に移転したが、明治43年（1910）逓信省新庁舎が完成すると名称を「逓信博物館」と改めて同庁舎内に再び移転した。大正11年（1922）、逓信省内のスペースでは手狭となったため、麹町区富士見町の病院として使われていた洋館に移転した。



図1 創設時の郵便博物館玄関

- 1 井上卓朗「新たに発見された東大寺文書」（『郵便史研究』第27号、2009年3月）pp. 42～47。
- 2 K-8型機（初期のカッパ型ロケット）搭載用プラズマプロログ測定機。
- 3 万国郵便連合（Universal Postal Union）：1874年設立、日本は明治10年（1877）に加盟。
- 4 中央区銀座8-20-26、現在の郵便事業（株）銀座支店の位置。
- 5 港区芝公園2-5-20、現在のメルパルク東京の位置。

この建物は、幸いにも関東大震災や戦争の被害を受けなかった⁽⁶⁾ため、「飯田橋の通博」(図2)として多くの人に親しまれていたが、老朽化により昭和39年(1964)に現在の所在地である大手町へ移転、それ以降「通信総合博物館」⁽⁷⁾として現在に至っている。



図2 麹町区富士見町(飯田橋)の通信博物館

3 博物館創設の功労者「樋畑雪湖」⁽⁸⁾

樋畑雪湖(ひばた せっこ)は、郵趣研究の第一人者、切手原画作者、江戸時代の宿駅、街道など交通史の研究者として著名な人物であるが、郵便博物館創設の功労者であることはあまり知られていない。

樋畑雪湖は、安政5年1月20日(1858年3月5日)、真田藩士樋畑翁輔(おうすけ)⁽⁹⁾の長男として江戸深川の真田(信州松代)藩の下屋敷に誕生した。本名は樋畑正太郎、雪湖の号は故郷の諏訪湖の雪景にちなんでつけたものである。父翁輔は画才があり、嘉永6年(1853)のペリー来航時に高川文筈(ぶんせん)とともにその様子を描いたスケッチ⁽¹⁰⁾は、当時の状況を知るための貴重な資料となっている。

父の才能を受け継いだ樋畑雪湖は、幼い頃から絵画を学んでいる。文久2年(1862)、翁輔が病気のため江戸詰を解かれ松代に戻り、松代藩校の文武学校に入学、山寺常山に学び、かたわら父の進めにより酒井雪谷に師事して画を学んだ。

明治8年(1875)、絵の修行のため上京し、浮世絵の富岡判六、洋画の川上冬崖に師事した。同年、陸軍参謀本部図生に任用されるが、明治9年(1876)母大病のため松代に帰郷、明治11年(1878)長野県庁図生として再出発し、明治13年(1880)史誌編輯掛、明治15年(1882)駅通御用掛兼務となる。明治17年(1884)志賀重昂が長野中学校に赴任したことで重昂との親交が始まり、明治27年(1894)に重昂の代表作『日本風景論』の表紙、挿絵を描いている。

明治18年(1885)、通信省に出向を命じられ上京、同省駅通局に勤務、明治25年(1892)、郵務局計理課物品掛長となる。掛長として郵便用品の改良などを担当するかたわら、通信事業に関する資料の収集・保存を行った。郵便博物館が創設されると同館の主任として勤務し、大正12年(1923)に退官するまで、郵便創業関連資料の収集、江戸時代の飛脚や街道など通信・交通関係資料の収集、電気通信資料の収集を行った。また、切手・はがき原画制作、特殊通信日

6 但し、写真資料だけは、展示に必要なもの以外を通信省内の写真室に保管していたため、震災によって焼失してしまった(通信博物館『通信博物館75年史』信友社、1977 pp. 103~104)。
7 通信総合博物館(ていぱーく)は、昭和39年(1964)12月に郵政省、日本電信電話公社、日本放送協会、国際電信電話株式会社によって設立され、現在は日本郵政株式会社・NTT東日本・日本放送協会の3機関で共同運営を行っている。郵政資料館はその中で郵政部門を担当している。
8 樋畑正士「樋畑雪湖(正太郎)の履歴(草稿)」(2002)、『通信博物館75年史』、横山要『樋畑雪湖年譜』(非売品、1982)、郵便文化史刊行会『日本の郵便文化選書解題』(示人社、1983) pp. 173~184、中村日出男「樋畑雪湖」(『郵政』12月号、郵政弘済会、1993) p. 71。
9 真田藩士。文化10年(1813)生。能役者、鼓の技は奥義に達していたという。画才があり歌川国芳の門下で画を学ぶ。ペリー来航時を描いた絵図で知られている(『もしもし80年 異聞東京史』東京新聞、1969)。
10 『米国使節彼理提督来朝図絵』(樋畑雪湖、1931)。

附印の印面作成なども担当した。鉄製赤色ポストの開発にも関与していたとみられる。退官時には自ら収集した交通関係資料321点を博物館に寄贈、その後も通信・交通に関する研究を行い、『交通』、『逓信協会雑誌』、『交通文化』等に論文を発表し続け、昭和18年（1943）8月13日、86歳で没した。樋畑雪湖の幅広い博物館活動に対し「博物館創立の功労者」という評価が与えられ、昭和37年（1962）には逓信総合博物館60年記念として樋畑雪湖展も開催された。主な著書に、『日本郵便切手史論』（日本郵券倶楽部、1930）、『江戸時代の交通文化』（刀江書院、1931）、『日本交通史話』（雄山閣、1937）、『日本駅鈴論』（国際交通文化協会、1939）などがある。博物館において、樋畑雪湖が収集、整理、展示等を行った資料は通信・交通に関連する分野全般に及んでおり、その多岐にわたる雑多な業務を担当した雪湖は、まさに日本における博物館学芸員の草分け的存在と言えるのではないだろうか。

4 所蔵資料の変遷

(1) 郵便博物館時代の資料収集

博物館的な資料収集は、郵便博物館の母体となった郵務局計理課物品掛が明治25年（1892）に設置された当初から行われていた⁽¹¹⁾。同掛は、物品及び郵便切手類の調製・配給を行う傍ら、機器機械類の改良・考案・設計を担当していたが、そのために必要な参考品を収集し、30㎡の参考品室に整理・展示していた。明治30年（1897）には、諸外国の郵便用品の調査研究を目的に、万国郵便連合加盟国に参考資料の寄贈を依頼し、ポスト、制服、郵便用品等の送付を受けている。このように収集した資料が増加したため、2,640㎡の陳列所を兼ねた参考品室が明治32年（1899）に設けられた。同時期に篤志家からの伝馬文書その他の交通関係資料が寄贈され、電気試験所が保管していた電信機、電話機類、外国郵便課で保管していたUPU交付の外国切手類も移管された。

明治33年（1900）の陳列品原簿には既に「郵便博物館」という名称が記載されていることから、明治32年（1899）には、一般公開はしていないものの、実質的に郵便博物館としての活動が開始されていたと考えられる。この原簿によると当時の資料数は約600点であり、その大半は「創業時のポスト」など国内外の郵便に関連した資料であるが、駅通局所管資料として「五街道分間延絵図」、上野～高崎間、京都～神戸間などの「鉄道線路図」が陳列されていたことが分かる。

明治35年（1902）6月郵便博物館が開館し、最初の展覧会「万国郵便連合加盟25周年祝典記念展覧会」が開催された。その展示に際し、東京帝室博物館から「伊達政宗よりローマ法王への書簡」など10数点の出品があったほか、部内外から約300点の資料が出品された⁽¹²⁾。その出品資料の多くは展覧会終了後逓信省に寄贈され、郵便博物館に収蔵されることになった。

(2) 郵便博物館から逓信博物館へ

郵便博物館は、開館後日露戦争の影響でしばらくはその活動が停滞したが、国内では博物館施設が希少な時代にいち早く創設されていたことから、部内外からその存在は重要視され、明治42年（1909）逓信省庁舎の新築に合わせて新しい博物館施設が同庁舎内に設けられた。新博物館は、従来からの郵便、電信、電話の展示に、電気、海運、航路標識、駅制等の資料を加え

11 『逓信博物館75年史』 pp. 11～15。

12 『万国郵便連合加盟25周年祝典記念展覧会出品目録』（逓信省通信局、1902）。

て展示したため、通信事業全般を網羅する博物館として、名称も「通信博物館」と改められた。

これを機会に、通信事業に関連する有益な資料を収集するため、明治44年(1911)5月、「通信博物館陳列品寄贈及び出品手続」が次のとおり定められた。

通信博物館陳列品寄贈及び出品手続(明治44年5月13日告示547号)

当省構内通信博物館へ郵便、電信、電話、船舶、電気其ノ他海陸運輸交通ニ関スル内外古今ノ文書図書物品等ヲ寄贈又ハ出品スル場合ノ手続左ノ通定メタリ

通信博物館陳列品寄贈及び出品手続

- 一 通信博物館へ陳列ノ為メ文書図書物品ノ寄贈又ハ出品セントスルモノハ直接通信博物館又ハ最寄郵便局若シクハ通信局ヲ経テ申出ツルヲ要ス 此ノ場合ニ於テハ先ス其ノ品名、形状、容積、重量、所伝来歴等詳記シタル書面ヲ通信博物館長ニ宛テ差出サルヘシ 但シ運搬費ヲ要求セラルル向キハ其ノ概定額ヲモ付記ヲ要ス
- 二 通信博物館ニ於テ前項申出ニ接シタルトキハ直ニ審査ノ上直接若シクハ經由局ヲ経テ其ノ要否ヲ申出人ニ通告スヘシ
- 三 前項ニ依ル寄贈又ハ出品通告書ニハ其ノ物品ヲ提出スヘキ局所ヲ付記スヘキニ依リ申出人於テ右通告ヲ受ケタルトキハ指定ノ場所ニ現品ヲ提出セラルヘシ 但シ遠隔ノ地ヨリスル寄贈又ハ出品物ノ運搬費ハ通信博物館ニ於テ之ヲ支弁スルコトアルヘシ

また、同時に、通信次官から各府県知事に、運輸交通に関する資料参考品の寄贈、出品の勧誘を依頼するという、今では考えられない方法で資料収集が行われている。次の文書は通信省の総務部長から部内各所長に通達した文書であるが、このうち博第1号(明治44年5月15日)が各府県知事への依頼文書である。

通信博物館陳列品寄贈及出品ニ関スル件(明治44年5月23日庶第610号 総務部長より各所長へ通牒)

標記ニ関スル手続本月13日告示547号ヲ以テ制定ト同時ニ之カ勧誘手続方左記ノ通通信次官ヨリ各地地方長官へ依頼セラレタルニ付テハ寄贈又ハ出品等直接申出ノ向アラハ丁寧懇切且便宜ノ取扱セラルル様致度

博第1号 明治44年5月15日

通信次官 仲小路 廉

知事殿

当省通信博物館陳列品寄贈及び出品手続告示547号ヲ以テ発表致シ候処今ハ汎ク内外古今ニ涉リ運輸交通ニ関スル文書図書物品ヲ蒐集陳列シ事業ノ発達進歩ノ状況ヲ示シ一面ニハ海運事業、電気事業ノ一様ヲモ公衆ニ周知セシメ度其陳列整備ノ緒ニ就キ候実況ハ過般御出京ニ際シ御案内セシ如ク貴官既ニ御了知ノ通りニ有之爾来毎週日火土ノ三日一般縦覧ヲ開始致候ニ就テハ貴縣ニ於テモ右ニ資スヘキ物品等御出品相成度殊ニ我邦維新以前ニ属スヘキ資料ノ如キハ極メテ稀少ニ有之候ニ付其所傳ノ正確ニシテ苟モ交通ノ資料トナルヘキモノハ進デ出品及寄贈スヘキ様管内一般へ勧誘方御取計相成度又直接本館ニ物品ヲ受領シタル場合ニハ其品名、代償、寄贈者ノ族籍姓名身分等必要ノ事項ヲ詳記シ御通知可致ニ付成規ニ依リ賞與方取計ハレ度参考ノ為メ別紙本館ノ位置及陳列区分調書等相添此段及御依頼候

それ以降、日英博覧会出品物の返還品、欧州各国からの新収蔵品を加え、大正元年（1912）には、郵便切手類以外に6,800点を超える展示品を持つに至った。主な概要は次のとおりである。

逓信博物館展示概要

- 一 駅傳部 郵便業務開始以前に属する参考品及び文献
駅鈴、傳鈴、駅傳箱、書状封印の沿革、状箱、文箱、会符、高札、見合印鑑、宿割帳、継立帳
- 二 内国郵便部 郵便の歴史資料、野戦郵便、台湾、樺太、朝鮮、遼東等の交通資料
- 三 外国郵便部 汎く海外に於ける郵便用品及図画
- 四 万国郵便切手部 内外各国に於ける郵便切手類を、年次を逐って陳列し、併せて内外の趣味のある絵葉書の展示（時々陳列替を行う）
- 五 電信電話部 内外古今に渉る各種の通信機械を陳列し、其の一部の機械は時々実演し、実際の取扱方を示す。
- 六 郵便為替貯金部 郵便為替貯金の発達を示す統計、その他、取扱上に於ける器具、図書等を陳列して貯蓄心の涵養に資す。
- 七 船舶部 造船及び灯台の沿革を模型又は図書を以て示し、航海の図表、灯台の位置、海員の養成等を示し、専ら海事思想の開発に資す。
- 八 電気事業部 発電の装置、電気応用の一斑を示し、専ら此の新事業に対する知識の普及に資す。

(3) 飯田橋の逓信博物館

大正11年（1922）3月、富士見町（飯田橋）に移転した逓信博物館の展示室は増加した資料を展示するため13室に及んだ。各室の陳列区分と主な展示資料は次のとおりである。

- 第1室 電信 ペリー提督が幕府に贈った電信機、我国電信業務創始当時の電信機及び電信符号表、佐久間象山が電信実験に使用したる本人自製の絹巻銅線、各種電信受信機、送信機、明治38年頃の電信交換機、海底電敷設船南洋丸及び沖繩丸の模型、ヒューズ印刷電信機等
- 第2室 電話 グレハム・ベル発明の電話機模型、明治11年我国最初の国産磁石式電話機より最新の自動式三号卓上電話機に至る各種電話機、明治29年始めて東京及び横浜に電話交換事務を開始当時の東京横浜電話加入者人名表、外国電信電話機、テレフンケン式搬送電話端局装置等
- 第3室 無線電信、無線電話 我国に於いて発明された最初の無線電話機、信濃丸にて使用せる無線電信機等
- 第4室 現用電気通信機の実演 電磁オシログラフ、無線方向探知機、ストロージャー式電話自動交換機、録音器、周波数逓減装置、簡易写真電送装置等
- 第5室 交通史料 駅鈴、鐸鈴、通信沿革を示す模型、飛脚及び伝馬に関する参考品、交通類風俗を描写したる絵図、版画、印鑑、会符、道中案内記、乗物の模型等
- 第6室 海運 林子平著「三国通覧」、その他日本往時の船舶参考資料、陸奥丸、秦買丸の模型、台湾、南洋の刳舟模型、豊臣、徳川初期の艦船日本丸、天地丸千石船の模型等

- 第7室 郵便切手
- 第8室 航路標識 石油白熱燈、アセチリン瓦斯閃光燈、その他灯台用機器類、日本各地の灯台写真
- 第9室 電話、テレビジョン
- 第10室 航空 二宮忠八氏考案の飛行機模型、小島式航路標識燈、航空用発動機、航空地図、各種飛行機模型、飛行機のプロペラ、計器、航空写真機、飛行服、郵便小包用パラシュート等
- 第11室 電気 佐久間象山の地震予知機、象山及びシーボルトの電気治療器、平賀源内のエレキテル、電動機、電気扇等及び照明器具、住宅の電気設備模型等
- 第12室 電気 水力発電所模型、電力の利用を示す模型
- 第13室 郵便、貯金、保険 我国郵便創始当時以降の規則布告、文献、郵便集配、通送用具各種、我国最初の郵便旗、内外通信日附印、野戦郵便用具、各種行囊、郵便貯金、郵便為替、簡易生命保険、郵便年金に関する参考品、我国郵便創業当時の郵便箱等

その後、毎年、郵便切手類は数千点、それ以外の資料は200点前後のペースで増加しており、昭和13年度における展示資料数は、郵便切手類が192,090点、それ以外が16,867点となっている。昭和15年（1940）には来館者が年間5万人を超えるなど博物館の運営は順調に推移してきた。

しかし、昭和16年（1941）の日米開戦以降、戦時体制が強化されたことに伴い、博物館は昭和19年（1944）4月ついに閉館することになった。戦局の悪化した昭和20年（1945）には、新潟にある通信博物館分館の前島記念館へ重要な資料を23箱の茶箱に積めて疎開させた。しかし、終戦後の昭和21年（1946）3月にはふたたび東京に運び戻し、資料整備を行い、昭和22年（1947）11月に再開館している。

(4) 大手町へ移転

飯田橋の通信博物館の建物は、移転した当時としてはモダンな洋館として国内でも主要な建築の一つに数えられるほどであったが、老朽化が進んだため、新たな博物館構想が検討されることになった。昭和32年（1957）には、通信・放送の総合博物館を目指す通信総合博物館建設計画が提案され、建設委員会が発足し、昭和39年（1964）、郵政省、日本電信電話公社、日本放送協会、国際電信電話株式会社の4機関による共同運営の「通信総合博物館」が大手町に完成した。

通信総合博物館の延床面積は13,500㎡で、総工費8億円、建築に1年10ヶ月を要した。エレベータ、エスカレータ、冷暖房付で資料室、教室、会議室、映写施設のある講堂、図書閲覧室などがあり、当時としては最新の設備を備えた大きな博物館であった。

(5) 他官庁への資料の移管⁽¹³⁾

通信博物館は、これまで通信省時代に所掌していた電気・管船・灯台・航空等に関連する多数の資料を展示していたが、昭和18年（1943）に通信省の所管外となった船舶、航空、電気等の事業に関連する資料については、その時点から一般公開を中止し、それ以降は国立科学博物

13 『通信博物館75年史』 pp. 212~216。

館や交通博物館（当時）¹⁴などの要請があったときにのみ出品展示を行っていた。これらの資料は、大手町への移転計画の中で「必要とするところで有効に活用してもらうのが好ましい」との意見があり、逓信省と運輸省、文部省で協議の上、昭和40年（1965）にその大半が運輸省と文部省へ移管された。

運輸省に移管された資料は、船舶模型ほか536点で、交通博物館（当時）と船の科学館に譲渡され、文部省に移管された資料は、電流計など電気関係資料62点で、こちらは国立科学博物館に譲渡された。

(6) 大韓民国への資料引渡し

昭和40年（1965）12月8日、我が国と大韓民国の両国間に「文化財及び文化協力に関する日本国と大韓民国との間の協定」が批准され、この協定に該当する資料約20点が通信博物館から外務省へ移管された。

移管された資料は湖南電報局看板、電報司標札、逓伝夫帽前章額、郵電線路図本、郵通司日附印などである。

(7) 逓信総合博物館以降の資料収集

大手町移転後は主に郵政部内資料の収集に努めてきたが、その一環として、全国の郵便局を対象に調査票を送付して残存する郵便局資料の調査を行い、昭和61年（1986）、館外資料目録を作成している。収集した主な郵便局資料としては、袋井郵便局資料、赤坂郵便局資料、三島郵便局資料、石部郵便局資料、久住郵便局資料などがある。これらには郵便創業期からの連続した業務関連文書が含まれており、郵便史研究の上で大変貴重なものとなっている。袋井、赤坂、三島等の創業期資料については、その一部を資料図録、研究報告書として刊行している。

地方郵政局関連では、北陸郵政局資料、北海道郵政研修所資料がある。これらは、管内の郵便局から移管された資料がほとんどで、文書類のほか、雪道の集配に使用するスキー、かんじき、はかり、時計、提灯など業務に使用した郵便用品が含まれている。

郵政本省からは、雑誌『郵政』表紙原画、簡易保険扇子原画、郵政省以降の郵便切手・はがき原画、周知用ポスター、郵便局員制服等を収集した。また、郵政公社図書室が民営化に伴い閉鎖される際、所蔵図書の中で特に貴重なもの約15,000点を収集している。

また、郵便創業の父「前島密」に関する新たに発見された資料についても収集を行った。この中の明治3年（1870）と4年（1871）に書かれた書簡は、前島密が郵便を創業する前後のものであり、非常に貴重である。

電気通信関係では、平成5年（1993）に「逓信省時代の通信の歴史に関する調査研究」¹⁵を日本電信電話株式会社、国際電信電話株式会社と共同で行い、黎明期の有線電信、無線電信、電話に関する所蔵資料の再評価、資料収集を行った。更に、幕末から明治初期の電信機について、逓信総合研究所と共同研究を行い、「平賀源内のエレキテル」の原理解明と機能模型の製作、「ペリー提督献上のエンボッシング・モールス電信機」、「ブレゲ指字電信機」、「榎本武揚のディエ印字電信機」の通信機能回復と通信実験、「エンボッシング・モールス電信機用ダニエル電池」の復元を行っている。

14 現・鉄道博物館（埼玉県さいたま市）。

15 「日本最初の工学博士 志田林三郎」の業績再評価からスタートしたもので、東海大学教授若井登氏を中心として研究を行った。研究報告書として『逓信省時代の通信の歴史に関する調査研究報告書』（1993）、出版物として若井登・高橋雄造編著『てれこむノ夜明ケ』（1994）がある。

5 所蔵資料の分類

郵政資料館では、所蔵資料を「一般資料」、「図書資料」、「写真資料」、「日本切手」、「外国切手」の5つのデータベースで管理している。

郵便切手については、昭和60年（1985）からコンピュータによるデータ管理を始め、平成4年（1992）にミュージアムデータシステム（ワークステーション）による運用を開始し、平成9年（1997）には展示場と連動したクライアントサーバシステムの切手データベースを完成させた。平成12年度には「図書資料」、「写真資料」、「一般資料」のデータベースを構築し、平成16年（2004）からは美術館用ASP⁽¹⁶⁾を利用してデータを管理・運用している。このデータベースには、現在、一般資料33,330点、図書資料32,462点、写真資料12,368点、日本切手6,488点、外国切手321,076点、計405,724点のデータが登録されている。資料分類は後掲の表1のとおりである。

6 主な収蔵資料

所蔵資料を内容別に見ると、①郵政事業（郵便・貯金・保険）関係資料、②郵便創業以前の通信・交通等に関する資料、③電気通信等に関する資料④電気・管船・灯台・航空・鉄道等に関連する資料⑤美術資料に大別される。

(1) 郵政事業関係資料

郵政三事業（郵便・貯金・保険）の創業から現在に至るまでの各時代の状況を示す実物資料と関係文書類である。

この中で最も大きな比重を占めるのが郵便切手である。日本切手は郵便創業時に発行された竜文切手から現在発行されている切手まで約6,500種、外国切手は既に存在していない国も含めて255カ国（地域）約32万種を所蔵している。

郵便創業期の重要な文書資料としては、「正院本省郵便決議簿（第壱号、第弐号）」、「駅通改正草稿」、「紀事編纂原稿」、「駅通明鑑」、「郵便切手類沿革志」「前島密自伝草稿 行く道のしるし」などがある。

創業期の代表的な用品資料としては、創業時に使用された都市用と街道筋用の郵便ポスト「書状集め箱」、機器類としては「自働郵便切手葉書売下機」がある。

その概略は次のとおりである。

(a) 正院本省郵便決議簿(第壱号、第弐号)⁽¹⁷⁾(図3)

正院本省郵便決議簿は、郵便創業時からの2年間の文書類をまとめたもので、前島密が起案した郵便創業の起案文書を筆頭に明治3年（1870）25件、明治4年（1871）93件の文書が収録されている。当初は庶務、会計、建築等様々な決議簿が存在したと考えられるが、現存するのは2冊の郵便決議簿のみである。各種決議簿が作成されたのは、駅通寮が



図3 正院本省郵便決議簿（第壱号 第弐号）

16 自館の資料データベースを、事業者の所有するサーバと博物館・美術館用アプリケーションソフトを使用して、インターネットを通じて利用する Application Service Provider。

17 『郵便創業時の起案文書 正院本省郵便決議簿 第壱号』（郵政研究所附属資料館、1991）。

大蔵省に所属していた明治5年（1872）頃と考えられるが、郵政資料館所蔵の郵便決議簿は内務省の公用箋を使用しているため、駅逓寮が内務省所属となった明治7年（1874）頃に写本として作られたものと考えられる。

(b) 駅逓改正草稿⁽¹⁸⁾

明治3年（1870）から明治4年（1871）までの駅逓、郵便に関する決議文書を写したもので、前島密の後任となった杉浦譲が所持していた。新式郵便施行のための準備状況等を知ることができる。

(c) 紀事編纂原稿⁽¹⁹⁾

明治元年（1868）から明治6年（1873）までの駅逓、郵便に関する事項を年表的に記録したもので、第1冊から第5冊までが本編（駅逓）、第6冊から第8冊までが郵便編となっている。「駅逓志稿」（大日本帝国駅逓志稿・同考証）編纂時に作成した駅逓志料の一部である。

(d) 駅逓明鑑⁽²⁰⁾

農商務省駅逓局が、郵便を含む交通・運輸・通信に関する各種決議簿より明治元年（1868）から明治5年（1872）までの決議文書を採録・編集、明治15年（1882）に「駅逓明鑑」と題して出版したもので、全11巻（10冊）に及ぶ。郵政資料館と国立公文書館が原本を所蔵している。

(e) 郵便切手類沿革志⁽²¹⁾

郵便切手類の沿革を解説し調製決議文書と切手類を収録したこの資料は、明治前期の郵便切手類の発行に関する決議書綴とも言えるもので、明治4年（1871）から明治27年（1894）までを記録した正編の「郵便切手類沿革志」、その別冊で切手類の製造枚数や費用、販売枚数、収入金額等を記録した「郵便切手類沿革志附録諸表」、明治28年（1895）から明治34年（1901）までを記録した続編「続郵便切手類沿革志」から成っている。内容は、切手、はがき、封皮、帯紙、電信切手、飛信逓送切手等の沿革を編年的に列挙し、その根拠となる回議文書を掲載している。これらの沿革志は、逓信省が廃止となった切手やはがき等の使用を明治22年（1889）に禁止したため、各国の郵政庁等から郵便切手の沿革についての質問や参考のための寄贈を求める依頼が相次ぎ、その煩雑な手数に悩まされた同省が、その対策として編纂したものである。

(f) 前島密自伝草稿 「行き路のしるし」⁽²²⁾

前島密が明治14年（1881）に退官した直後に書いた自伝草稿で、出生、幼少時から郵便創業、駅逓総官を退官するまでのことが書かれている。

(g) 書状集め箱⁽²³⁾

書状集め箱は明治4年（1871）の郵便創業時に設置された最初の郵便ポストである。市内用と街道筋用の2種類があり、「市内用」は東京市内に12ヶ所、京都市内に5ヶ所、大阪市内に8ヶ所設置され、「街道筋用」は東海道の各宿駅に「上り方」と「下り方」の各1、計2個ずつが設置されている。市内用・街道筋用とも白木のままで、字は墨色である。支柱の下方は土中に入り固定され、箱と掲示板は見守人が朝夕出し入れをした。郵便切手を貼らずに封筒に現金をくくりつけて郵便差出箱に投げ込む者や、書状を路上の郵便ポストに投函することに不安を感

18 土屋喬雄編『杉浦譲全集』第3巻（杉浦譲全集刊行会、1978）。

19 『郵便創業時の年表 駅逓紀事編纂原稿』（郵政省郵政研究所附属資料館、1990）。

20 『郵政百年史資料』第12巻（吉川弘文館、1968）。

21 『郵便創業期の記録 郵便切手類沿革志』（郵政省郵政研究所附属資料館、1996）。

22 橋本輝夫監修『行き路のしるし 前島密生誕百五十年記念出版』（日本郵趣出版、1986）。

23 『資料図録No. 1：郵便差出箱（ポスト）のうつりかわり〈その1〉』（1974）、『資料図録No. 39：郵便ポストのうつりかわり〈その1〉』（1989）。

じて、集配人が収集めに来るまで物陰から見張っている者がいたという話が残っている。

(h) 自働郵便切手葉書売下機⁽²⁴⁾

明治37年（1904）に製作された切手とはがきの自動販売機で、現存する日本最古の自動販売機と言われている。この機械は、投入されたコインの作用だけで作動するという江戸時代からのからくりの技術で作られており、動力は全く使われていない。向かって右側が3銭切手、左側が1銭5厘はがきの発売口で、在庫がなくなると「うりきれ」と表示される。下半分は郵便ポストになっており、つり銭口の下に差入口が付いている。

この機械を考案したのは山口県赤間関（現在の下関市）の俵屋高七という発明家である。俵屋高七は明治23年（1890）に「煙草やその他の物品の自動販売機」の特許を取得しており、日本最初の鉄製赤色ポスト（俵屋式ポスト）の考案者でもあった。

(2) 郵便創業以前の通信・交通等に関する資料

郵政資料館では、郵便創業以前の通信に関する資料は、通信と相互に関連する交通関係資料とあわせて「駅通資料」と称している。「駅通資料」に含まれる時代やものは広範囲だが、主として江戸時代の飛脚関係資料、旅に関する資料、宿駅に関する資料となっている。

「郵政資料館は通信（郵便）の博物館なのになぜ江戸時代の街道や宿駅など交通関係資料を所蔵しているのか」という疑問を持たれる方が多い。

この答えとしては、①駅通司、駅通寮、通信省は、通信だけでなく交通分野についても所掌していたため、有史以来からの通信・交通の歴史調査を行い、資料を収集したこと、②駅通司は、道中奉行所の系譜を引く役所であったため、江戸幕府の街道や宿駅などの資料の一部をそのまま道中奉行所から引き継いだため、③創業時の郵便制度は江戸時代の交通（宿駅）制度をそのまま利用した部分が多く、宿駅の本陣、問屋が明治期に郵便取扱所となっているため、江戸期から明治期にかけての宿駅資料を連続的に収集したこと、④前述の樋畑雪湖が、東海道交通資料展等の展覧会を開催して、さまざまな通信・交通関係の実物資料、錦絵などを積極的に収集したこと、などが挙げられる。

この分野の代表的な所蔵資料としては、「駅通志料」がある。また、珍しい資料として、まぼろしの絵巻である東海道絵巻を写した「東海道絵巻」写真資料がある。その概要は次のとおりである。

(a) 駅通志料

日本の交通・通信の歴史書「駅通志稿」（大日本帝国駅通志稿・同考証）を編纂するために、駅通寮が調査し収集したもので、約370冊に及ぶ一連の図書である。この中には、「五街道宿村大概帳」、「五街道取締書物類寄」、「御伝馬方旧記」、「定飛脚問屋仲間仕法帳」、「五駅弁覧」、「島屋佐右衛門家声録」など江戸時代の交通・通信に関する貴重な資料が含まれており、これらの一部は、学習院大学名誉教授の児玉幸多氏の編集で吉川弘文館から「近世交通史料集」⁽²⁵⁾として公刊されている。

中でも「宿村大概帳」⁽²⁶⁾（**図4**）は、幕府の道中奉行所が天保より安政年代（1830～50年代）にかけて調査した五街道とその脇街道の宿駅の記録で53冊が収蔵されている。各宿駅の人口、戸数、本陣、旅籠の数、高札の内容、道路の広さ、橋、寺社、地域の産業、特産品など宿駅と街道筋の村落の状況が記載されており、次に紹介する「五街道分間延絵図」と併せて道中奉行

24 『切手・はがき自動販売機 動作調査報告書』（1973）。

25 児玉幸多校訂『近世交通史料集1～10』（吉川弘文館、1967～1980）。

26 児玉幸多「解説」（『近世交通史料集』4 東海道宿村大概帳、吉川弘文館、1970）、福井保「209 宿村大概帳」（『江戸幕府編纂物 解説編』雄松堂出版、1983）。

所が使用したと考えられる。五街道の全宿駅を同時期に調査した記録として現存するのは本書だけであり、近世史研究に欠かせない貴重な資料となっている。

この宿村大概帳と同様に、幕府道中奉行所が使用していたものとして、「五街道其外分間見取延絵図」⁽²⁷⁾ (図5)がある。江戸幕府の道中奉行所が、寛政年中に幕府の命を承け製作にあたり、1800分の1の縮尺で描いたもので文化3年(1806)に完成した。この絵図は全部で3部が作成され、1部が將軍献上品として江戸城内に、2部が道中奉行所に置かれた。現在、東京国立博物館と郵政資料館がそれぞれ1部所蔵している。この絵図には、宿場、寺社、旧跡、一里塚、高札場、橋など街道の様子が詳細に記入されており、行政上必要な内容がすぐに分かるようになっている。郵政資料館所蔵本は、折本仕立てで92冊あり、東海道、中山道、甲州道中、日光道中、奥州道中の五街道とその脇街道が描かれている。そのうち、日光御山内見取絵図控、本坂道分間延絵図控、箱根湯治場見取絵図控、信州松本道見取絵図控の4点については郵政資料館のみに現存している。東京国立博物館所蔵のものは江戸城内(おそらく紅葉山文庫)にあったもので、91の卷子仕立てとなっている。

(b) 「東海道絵巻」写真資料⁽²⁸⁾ (図6)

東海道絵巻は、江戸時代中期に幕府の要職を務めた秋元喬知の遺品として旧子爵の秋元家が所蔵していたものであるが、大正12年(1923)の関東大震災により焼失してしまった。東京大学史料編纂所が模写絵を作成していたが巻頭の部分のみであったため、その全貌を知ることはできなかった。ところが、郵政資料館で江戸時代の通信制度に関する調査研究を行った際に、この東海道絵巻全編を撮影した写真帳を発見し、デジタル画像処理による精密な修復を行った結果、平成9年(1997)、

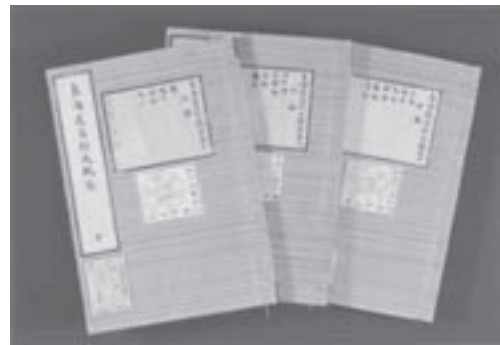


図4 東海道宿村大概帳



図5 本坂道分間延絵図控(気賀関所附近)



図6 東海道絵巻 江戸城

27 児玉幸多監修『東海道分間延絵図 解説』(東京美術、1977)、本田隆成「『東海道分間延絵図』作成の基礎調査」(『東海道交通史の研究』、静岡県地域史研究会、1996)、樋口秀雄「江戸から東京へー五街道分間延絵図と大概書をめぐって〈1〉〈2〉」(『五街道』3号・5号、東京美術、1978)、『五街道』編集部「絵図編修の背景とその伝来①②③」(『五街道』11~13号、東京美術、1978)、福井保「143 五街道其外分間見取延絵図」(『江戸幕府編纂物 解説編』雄松堂出版、1983)。
 28 樋口雪湖『江戸時代の交通文化』(刀江書院、1931)、井上卓朗「江戸時代の東海道における通信と交通について」(『郵政研究所10周年記念論文集』(1998))、同「よみがえった東海道絵巻の世界」(第12回郵政研究所研究発表会 郵政文化セッション、2000)、山本光正『街道絵図の成立と展開』(臨川書店、2006)。

この絵巻の完全な姿をよみがえらせることに成功した。

この絵巻には、江戸から京都までの神社仏閣、城郭、名所旧跡、河川、橋など東海道沿いの風景が詳細に描かれており、街道を行き来する旅人の姿や街道沿いに生活する人々の日常生活の様子に至るまで見る事ができる。地域別にみると、江戸から品川までが5場面、大津から京都までが8場面で、両京から最初の宿場までが特に詳しく描かれている。また江戸から10番目の箱根宿までが16場面なのに対し、京都から10番目の石薬師までが24場面となっており、関東よりも関西方面がより多く描かれている。

「東海道分間絵図」(元禄3年(1690))、「道中記」(天明6年(1786))、「東海道名所図会」(寛政9年(1797))などの原型といえるほど街道の情報は豊富で、地名だけでなく戦国時代の城跡や故事伝説に関連した名所旧跡の記述も多い。

江戸城、二条城を含む城郭、関所、要害となる河川、各宿駅の状況、里程、それに將軍の宿泊施設である御殿が詳しく描かれているため、老中である秋元喬知が街道の重要事項を絵巻にして残したとも考えられなくはないが、制作目的は、鑑賞用として、その当時旅する人が増え脚光を浴び始めていた東海道の様子を描かせたものと考えられる。

この絵巻は、いわば「洛中洛外図」や「江戸図屏風」の東海道版といえるのではないか。街道のさまざまな事象が細かく具体的に描かれ、登場する人物の表情も豊かであり、もし、現存していれば、美術的にも高い評価が与えられたと想像できる。

(3) 電気通信等に関連する資料

郵政資料館が黎明期の電気通信の貴重な資料を所蔵するに至った一因として、明治32年(1899)に電気試験所所長浅野応輔氏が、黎明期の電信・電話に関する資料を後世に残すため、同所が所蔵していた電気通信に関連する機器類を郵政資料館の前身に当たる通信省郵務局計理課物品掛の参考品陳列所に移管したことが挙げられる。

江戸時代の電気通信関連資料としては、「平賀源内のエレキテル」、「シーボルト所有の電気治療器一式」、「佐久間象山の電気関係資料」がある。佐久間象山は電流として流れる動電気を日本で最初に研究し、嘉永2年(1849)に電信機の実験を行ったとされている。その根拠のひとつが当館所蔵の「佐久間象山の絹巻銅線」、U字形の永久磁石に糸巻銅線を巻いた「佐久間象山の永久磁石」である。安政3年(1856)「地震計」は、永久磁石に付着した鉄片が落下して地震を知らせる仕組みであったと言われている。この他にも、ボルタの電池を使った「佐久間象山自製の電気治療器」がある。

初期の電信関係資料としては、「ペリー提督献上のエンボッシング・モールス電信機」、「ブレゲ指字電信機」、「榎本武揚のディニエ印字電信機」、オーストリア政府より明治天皇に献上され初のモールス電信実用機となった「エンボッサー・モールス電信機」(2座)、「アーリンコート生写伝信機」(フランスのアーリンコート社製)、鉄道電信用としてイギリスより購入し、明治5年、東京横浜間に初めて鉄道が開通した時に使用した「単針式電信機」、長崎線開通時の「シーメンス・モールス印字電信機」(イギリス製)、警察で使われた「ABC電信機」(ヘンリー社製 電磁誘導式指字電信機)、「大北電信会社電信機」(St. N. T. Ss. FABRIK)などがある。

「平賀源内のエレキテル」、「ペリー提督献上のエンボッシング・モールス電信機」、「ブレゲ指字電信機」の3点は国の重要文化財に指定されており、概要は次のとおりである。

(a) 平賀源内のエレキテル (図7)⁽²⁹⁾

平賀源内が製作した摩擦起電機で、我が国で最も古い電気関連の機械と言われている。箱の横に付いた取手を回すことで内部のガラス瓶を回転させ、金属箔との摩擦を起こし、静電気を発生させる。

エレキテルは電気ショックを利用した医療器具としてオランダから伝えられたが、日本では発電の見世物として評判を呼んだ。平成9年(1997)6月に、国の重要文化財に指定されている。



図7 平賀源内のエレキテル

(b) ペリー提督献上のエンボッシング・モールス電信機(図8)⁽³⁰⁾

安政元年(1854)、日米和親条約締結のために2回目の来日を果たした米国遣日使節のペリー提督が、米国大統領フィルモアから将軍家定への贈答品の一つとして持参したエンボス式(インクを使わず凹凸によってモールス符号をテープに記録する方式)のモールス電信機(2台)で、外箱中央のプレートには「For the Emperor of Japan」と彫刻してある。

ペリーは、この電信機2台と電線や電池など装置一式を持参しており、横浜の応接所から約1マイルの間に電線を架し、通信実験を行ったとされている。しかし、「ペリーの通信実験はアースして行ったために、通信線1マイル(約1,609m)のうち、使用したのはその半分の約800mであり、地図上で計測しても両地間は約800mである。」と若井登氏⁽³¹⁾は主張している。



図8 ペリー提督献上のエンボッシング・モールス電信機

この電信機は明治維新により新政府が接收

し、東京帝国大学の所蔵を経て、明治43年(1910)に通信博物館の所蔵となっている。この電信機は、エレキテルと同じく平成9年(1997)6月に、国の重要文化財に指定された。

(c) ブレゲ指字電信機(図9)

我が国初の公衆電信事業開始時に使用された電信機である。東京の築地運上所と横浜裁判所に伝信機役所が設けられ、明治2年9月19日(1869年10月23日)に横浜から架線工事が始められた。この日が電信電話記念日となっている。その約3ヶ月後の明治2年12月25日(1870年1月26日)に、初の公衆電信事業が開始された。このとき使用された電信機は、訓練を受けた電信士を必要とするモールス式電信機ではなく、操作方法の簡単なフランス製のブレゲ指字電信機であった。

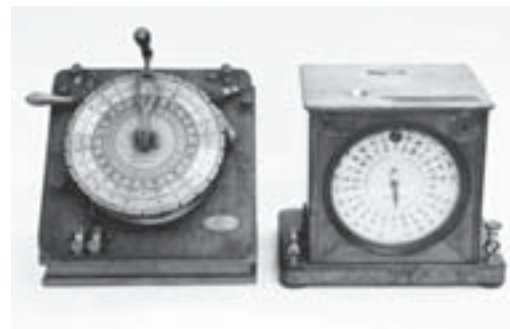


図9 ブレゲ指字電信機

29 樋畑雪湖『江戸時代の交通文化』(刀江書院、1931)、若井登・井上恵子「平賀源内の「エレキテル」と機能模型による静電気実験」(第14回郵政研究所研究発表会 郵政文化セッション①、2002)、井上恵子「あれきてる考証」(『郵政研究所月報』郵政省郵政研究所、2002)。

30 樋畑雪湖『江戸時代の交通文化』(刀江書院、1931)、井上恵子「ペリー提督が献上した「エンボッシング・モールス電信機」(複製機)の機能改造と通信気実験」(第13回郵政研究所研究発表会 郵政文化セッション①、2001)。

31 「The 6th International symposium on Wireles Multimedia Communications」における発表(2003)。

送信者は、まずハンドルを時計方向に回して受信者側のベルを鳴らし、送信開始を合図する。それを受けた受信者は、同じ様に送信機のハンドルを回して送信者側のベルを鳴らし、受信の態勢に入ったことを知らせる。送信者は円形の文字盤のハンドルをゆっくり回して、送りたい文字の上に止める。すると断続信号が送られ、受信機の針は回転して同じ文字の位置で止まる。この文字を読み取り、通信を行うが、送信スピードは1分間に5、6文字程度であった。

郵政資料館所蔵のブレゲ指字電信機（送信機1台、受信機2台、携帯型1台）は、その当時使用されていたもので、平成14年（2002）6月、全機とも国の重要文化財に指定された⁽³²⁾。

(4) 電気・管船・灯台・航空・鉄道等に関連する資料

通信省所管の電気・管船・灯台・航空・鉄道等に関連する実物資料は、その大半は上記のとおり他官庁に移管されたため残っていない。しかし、図書資料、写真資料は移管されず、そのまま残されたために、約1,800点が現在も郵政資料館に所蔵されている。

資料としては次のようなものがある。

電気

電気事業要覧、発電機地点要覧、電力国策に関する資料、電力評価審査委員会議事録、電灯事業創始時代の発電機写真、アレキサンダーソン式高周波発電機写真、東京放送局発電室写真、銀座電話局発電室写真

管船・灯台

航路標識便覧表、海事摘要（大正13年～昭和4年）、灯台要覧、日本灯台表、工部統計志（灯台）、日本海運図史、各種船舶写真、各種灯台写真

航空・鉄道

航空年鑑、航空統計年報、主要各国民間航空輸送事業概要、中央航空乗員養成所写真、各種航空機写真、日本鉄道会社創立規則草稿、鉄道院所管線路図、鉄道布告、各線鉄道線路図

(5) 美術資料

郵政事業の長い歴史の中で、さまざまな理由から絵画が制作され、郵政資料館に所蔵されている。その代表的なものが切手・はがき類の原画である。また、郵便事業だけでなく郵便貯金事業、簡易保険事業においても周知用ポスター、奨励用扇子などが作成され、その原画が保存されている。また、郵政が発行した機関誌『郵政』の表紙原画も約450点が残されている。

これらの作品の作者には、黒田清輝、横山大観、川端龍子、上村松園、藤田嗣治、宮本三郎など日本画、西洋画の巨匠と呼ばれる画家が数多く含まれているが、一般の美術研究者にはその存在がほとんど知られておらず、作者の作品リストにも含まれていないケースが多い。

また、江戸時代の文読み、状箱、飛脚に関する通信関係錦絵、北斎、広重等の交通関係錦絵や絵地図、絵巻物、明治初期を中心とした錦絵⁽³³⁾、郵便作業を描いた「郵便取扱の図」、「郵便現業絵巻」などの絵巻⁽³⁴⁾が所蔵されている。

32 「ブレゲ電信機の修理復元」（『共同研究報告書』郵政研究所附属資料館、2001）。

33 『近代郵便のあけぼの』（通信総合博物館、1990）、『資料図録No. 56：第一部 郵便錦絵展 明治の新しい風』（郵政資料館、2007）。

34 『日本郵便のあけぼの』（郵趣サービス社、2003）。

「切手・はがき原画」⁽³⁵⁾、「簡易保険扇子原画」⁽³⁶⁾の作者、作品等については、表2、表3のとおりである。

7 今後の資料調査と資料収集

平成20年（2008）10月、「郵政資料館の所蔵資料を活用した郵政の歴史・文化に関する研究会（郵政歴史文化研究会）」が郵政資料館に発足した。この研究会は「郵政資料館の対外的な情報発信力の強化や社会貢献活動の拡大を図るため、郵政資料館の所蔵資料を活用して研究を行うとともに、その過程で得られた所蔵資料の活用、研究成果の公表方法、活用方法を検討する」ことを目的としており、親委員会の下に次の5つの分科会の研究と1つの個別研究が行われている。

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 第1分科会 | 第二次大戦以前における郵便局の経営史 |
| 第2分科会 | 近代日本における郵便と戦争—戦地と銃後のポスタル・コミュニケーション— |
| 第3分科会 | 日本における公的金融の歴史と郵便貯金 |
| 第4分科会 | 通信と地域社会 |
| 第5分科会 | 郵政資料館所蔵近世交通資料群の研究 |
| 個別研究 | 館蔵の古文書・古典籍類の研究 |

分科会では、それぞれのテーマに関係する郵政資料館所蔵資料の調査・研究を行うほか、館外にある関連資料についても調査を行い、比較研究を行っている。今後は、この研究会の活動を中心とした資料調査と資料収集を行っていく予定である。

8 おわりに

郵政資料館所蔵資料は、資料の分野が多岐に渡るため統一的な分類が難しく、郵政資料館独自の分類を行っているが、研究者が専門分野での研究等で資料調査を行う場合に検索し難い面がある。また、郵政資料館の歴史的経緯から分類の混乱、資料名称付定の不統一性等の問題が発生している。

これらの問題を解決していくには、まず、分野別に一般的に標準化された分類方法がある場合には、それを採用していく必要がある。また、すべての資料の内容を1点ずつ再評価し、それに基づいて分類、資料名の修正を行っていく必要がある。そのためには、長期的な資料調査と分野別の専門家のアドバイスが必要となってくる。

郵政資料館の「郵政歴史文化研究会」は、この役割を担うとともに、郵政資料館の所蔵する膨大な文化遺産を学術的に再評価し、その歴史的、文化的価値を再発見していく予定である。郵政資料館としてはその成果を特別展や出版、インターネット等を通じて広く社会に公開する活動を行っていききたい。

35 『展示図録：切手原画にみる日本の美』（通信博物館、1987）、『展示図録：華麗なる日本画の世界』（郵政研究所附属資料館、1991）、『展示図録：ふみを彩る女流画家たち』（郵政研究所附属資料館、1991）、『資料図録No. 58：第三部 切手原画展 ふみをかざるひとひらの美』（郵政資料館、2007）。

36 『簡易保険創業75周年記念扇子原画集 扇』（郵政省簡易保険局、1991）、『展示図録：華麗なる日本画の世界』（郵政研究所附属資料館、1991）、『展示図録：ふみを彩る女流画家たち』（郵政研究所附属資料館、1991）、『資料図録No. 55：魅せられる扇面画の世界』（2005）、『資料図録No. 57：第二部 扇子原画展 麗しく華ひらく』（郵政資料館、2007）。

一般資料 33,330点

| 分類番号 | 分類 | 主な資料 |
|----------|---------------|--|
| 駅通資料 | | |
| 1000 | 古代・中世関係等 | 駅鈴（香取秀真複製）、土符、木契、矢文 |
| 1100 | 飛脚関係（用品類）等 | 飛脚問屋定、定飛脚看板、飛脚屋印 |
| 1200 | 飛脚関係（携行品類）等 | 定飛脚焼印札、飛脚箱、飛脚胴乱、会符、飛脚法被、胸当 |
| 1300 | 書状関係等 | 文書袋、状箱、切手箱、先触板、絵封筒版木 |
| 1400 | 文具類等 | 筆、矢立、硯箱 |
| 1500 | 交通・街道・宿場関係等 | 道中高札、駕籠、輦台、門札、御状葛筆引替札、講札 |
| 1600 | 旅行用品類・運送関係等 | 笠、道中着、旅合羽、御用箱、挟箱、両掛、現金運送箱、胴乱、早道、路銀袋、財布、脇差型金子入、里時計、提灯、茶弁当器、旅行火、天狗背負面 |
| 1700 | その他 | さき毛、茶御用旗、馬鈴 |
| 1800 | 飛脚状関係等 | 飛脚状、回状、古書状、絵半切、絵封筒、飛脚屋証文 |
| 1900 | 交通関係等 | 今川氏伝馬文書、後北条氏伝馬朱印状、徳川氏伝馬朱印状、関所手形、休泊切手、関札、駄賃定書、駄賃帳、駄賃札、人馬請負証文、助郷資料、旅籠帳、継飛脚書状留綴 |
| 郵便資料 | | |
| 2000 | 郵便物、郵便差出箱類等 | 書状集箱、黒ポスト、回転式ポスト、丸ポスト、角型ポスト、掛箱（白木、春慶塗等）、外国ポスト |
| 2100 | 被服・装身具類等 | 帽子、制服、外国制服、ワイシャツ、ネクタイ、脚絆、靴、肩章、バッジ類、法被、頭巾、野戦郵便局員用装備 |
| 2200 | 標章類、販売機器類等 | 野戦郵便局携帯天幕、郵便旗、通信旗、局前灯器、八角時計、看板、公印類、料金計器、自働郵便切手葉書売下機 |
| 2300 | 日附印類、事務用品類等 | 地名入検査済印、賃銭切手済印、不統一印、記番印、二重丸印、丸一印、丸二印、櫛型印、特殊通信日附印、小型印、風景印、記念印、初日印、標語入り自動押印機活字、はかり |
| 2400 | 局内用機器・備品・郵袋類等 | 区分機1号機、外国製自動押印機、林式押印機、自動は束機、区分だな、区分かご、郵便行李、行のう、郵袋 |
| 2500 | 外務関係用品・模型類等 | 取集用番号札、取集用かばん、携帯時計、郵便ラッパ、灯器、人車、郵便自動車、鉄道郵便車模型、郵便船模型、郵便受箱 |
| 2600 | 雑品等 | 非常持出袋、用品外おおい、帳簿立、事務用版木 |
| 2700 | 記念品関係等 | 万国郵便連合像、年賀お年玉商品、鉄道郵便局廃止記念品 |
| 2800 | 郵便物等 | 年賀状、国際年賀状、日附印原画、封筒、帯紙 |
| 2900 | 郵便物運送・配達関係等 | 飛信継送帳、送達関係書類、郵便物日計表、付せん紙、郵便経費受払書、履歴原簿、引札、案内印刷物 |
| 貯金・為替・振替 | | |
| 3000 | 貯金箱類等 | たぬき型・車型・砲弾型等各種貯金箱 |
| 3100 | 外国貯金箱等 | 世界の貯金箱 |
| 3200 | 標章類等 | 駅通局看板、公印類 |
| 3300 | 貯金印等 | 事務用印、為替貯金金額印、そろばん |
| 3400 | 備品類等 | 貯金預入申込保管箱、資金運送箱 |
| 3500 | 外務関係用品類等 | 貯金外勤用かばん |
| 3600 | 焼印等 | 為替貯金焼印 |
| 3700 | 周知用関連等 | 周知用品、紙芝居用具、手帳、周知用扇子、手拭 |
| 3800 | 貯金通帳類等 | 預入申込書、貯金通帳、定額小為替 |
| 3900 | 式紙・帳簿類等 | 出納帳、各局印鑑簿、案内・周知印刷物 |

表1 郵政資料館の資料分類（一般）

| | | |
|---------------|-------------|--|
| 保険・年金 | | |
| 4000 | 保険料貯金箱等 | 保険料貯金箱 |
| 4200 | 標章類等 | 保険年金看板 |
| 4300 | 事務用品等類 | 紀元二千六百年記念印 |
| 4500 | 外務関係用品類等 | 保険外勤用かばん |
| 4700 | 周知用品等 | 簡易保険事業功労者用扇子、扇子原画、周知用筆記具 |
| 4800 | 式紙・帳簿類（保険）等 | 保険申込書、集金票、保険証書 |
| 4900 | 式紙・帳簿類（年金）等 | 郵便年金証書、案内・周知印刷物 |
| 郵便切手類関連 | | |
| 5000 | 郵便切手類図案原画等 | 通常切手原画、特殊切手原画、記念絵はがき原画、試作図案、郵便切手類原画 |
| 5100 | 献上郵便切手類帖等 | 献上郵便切手類帖、郵便切手沿革帖 |
| 5200 | 切手類はり込み帖等 | 外国郵便切手類はり込み帖 |
| 5300 | 郵便消印帖等 | 明治時代年月順消印集、欧米各国郵便日附印集、エンタイア |
| 5400 | 意匠関係文書等 | 郵便切手、通信日附印意匠関係文書資料綴 |
| 5500 | 郵便はがき等 | 郵便はがき、封皮、帯紙、郵便書簡、現金書留封皮 |
| 5600 | 切手・はがき類参考品等 | 切手貼り絵、事務用はがき |
| 5700 | 郵便切手類試刷品等 | 通常郵便切手類試刷品、特殊郵便切手類試刷品 |
| 電気通信 | | |
| 6000 | 電波関係等 | 電離層観測装置、マルコーニ式波長計、テレビジョン受像機 |
| 6100 | 電信関係等 | ペリー提督献上のエンボッシング・モールス電信機、ブレゲ指字電信機、ABC電信機、榎本武揚のディニエ電信機、エンボッサー・モールス電信機、単針電信機、シーメンス・モールス印字電信機、アーリンコート生写伝信機、国産一号電信機、大北電信社電信機、放電間隙、デコヒーラ、時報器（田中久重銘入） |
| 6200 | 電話関係等 | 電話機（ベル型、国産、ガワーベル、卓上）、磁石式（ロイド、バイユ、ソリッドバック）、磁石式卓上電話機、共電式壁掛電話機、テレビジョン電話機 |
| 6300 | 電気関係等 | 平賀源内エレキテル、佐久間象山電気治療器、佐久間象山絹巻銅線、佐久間象山永久磁石、シーボルト所有の電気治療器、ボルタ電池、ダニエル電池、各種真空管、碍子 |
| 6600 | 標章類、外務用品類等 | 電気庁看板、制服、かばん |
| 6800 | 電報頼信紙類等 | 電報頼信紙、欧文電報頼信紙、電報送達紙 |
| 6900 | その他電報関係等 | 電報封筒、電報統計表、辞令、信濃丸感状 |
| その他 | | |
| 8000 | 通信博物館関係等 | 看板、記念印 |
| 8100 | 功労者の遺品遺墨類等 | 前島密遺品等関連資料、坂野鉄次郎遺品 |
| 8200 | 標章類等 | 駅鈴型香合、駅鈴型花入 |
| 8300 | 記念品類等 | 帝都復興記念品 |
| 8400 | 交通機関模型類等 | 郵便飛行機模型、郵船模型（あるぜんちな丸） |
| 8500～ 8900 | その他 | はきもの、水消火器、鉄道乗車券、展覧会案内、賞状、郵政審議会資料、紙幣、宮中式典心得、通信講習所資料、征討御用出張旅費並人名簿 |
| 郵便局資料 | | |
| 9000 | 郵便局関係等 | 雑誌『郵政』表紙原画、境町郵便局資料、大間越郵便局資料、越谷郵便局資料、北陸郵政局資料、北海道郵政研修所資料 |

表1 郵政資料館の資料分類（一般）

図書資料 32,462点

| 分類番号 | 分類 | 主な資料 |
|------|-------------------|---|
| A | 郵政一般 | |
| A A | 事業概論および事業史 | 駅通明鑑(原本11巻)、駅通寮調整決議、駅通志稿、駅通司函面、万国郵便連合加盟25年式典書類、通信事業概要、駅通略史、通信事業史 |
| A B | 年鑑および統計書 | 駅通寮年報、通信省年報、通信一覽 |
| A C | 経理関係 | 駅通寮諸経費の経理方、通信省所管歳入歳出予算各費 |
| A D | 従業員、人事、共済、厚生、監察関係 | 通信省高等官・判任官定員表、共済組合事業概要、職員保健統計報告、郵政監察年次概況 |
| A E | 法規類集 | 郵便創業の太政官布告(各地時間賃銭表、書状を出す人の心得)、大阪以西運賃賃銭表、郵便馬車賃銭記、郵便の全国実施布告、均一料金制実施の布告、郵便法規類集 |
| A F | 外国事情 | 万国郵便条約加盟布達書及び関連文書、各国郵便法規類 |
| A G | 会議議事録 | 通信管理局長会議議事録、通信局長会議議事録 |
| A H | 職員録 | 郵便取扱扱姓名録、官員録、駅通局職員録、通信省職員録 |
| A J | 局名録、区画便覧 | 村里名敷書、郵便局原簿、地名字引、郵便区画町村便覧 |
| A K | 雑書 | 郵便報知新聞、文明開化内外事情、火曜日東京日々新聞、特定郵便局制度調査会議事録、郵便遭難史資料、駅通寮と四日市郵便役所(油絵)大臣等肖像画 |
| A L | 通信博物館関係 | 通信博物館陳列品原簿、通信博物館発行図書 |
| A M | 達書、公報 | 中外郵便週報、駅通局報、通信公報、郵政公報、宿駅御用留 |
| A N | 逐次刊行物 | 交通、通信協会雑誌、郵政、新聞の声 |
| A P | 機械、器具等仕様書 | 差立区分棚仕様図、自動押印機仕様図、自動読取区分機図面 |
| A R | 庁舎工事写真 | 郵便局等庁舎新築工事写真 |
| B | 郵便 | |
| B A | 一般 | 正院本省郵便決議簿、郵便法説諭振り、駅通改正草稿、差出日割記、通信事業に関する諸用具雛形、郵便保護銃関係書類、郵便器具図 |
| B B | 雑書 | 郵便馬車函の組上、野戦郵便局日誌、郵便日記帳 |
| B C | 郵便線路図、集配図 | 郵便線路図、郵便地図、集配線路図 |
| B D | 逐次刊行物 | ゆうびん、ぼすとまん、エアメール |
| C | 切手 | |
| C A | 一般 | 郵便切手発行布告類、戦役記念絵葉書文書綴 |
| C B | 通信日附印 | 大日本帝国郵便記念日附印目録、特殊通信日附印目録 |
| C C | カタログ | 大日本郵便切手類標準型録、大日本郵便切手類鑑、スコットカタログ、ギボンスカタログ、イバールカタログ |
| C D | 逐次刊行物 | 切手、フィラテリスト、郵楽、郵便切手雑誌、切手文化、切手趣味、郵趣 |
| C E | 外国切手雑誌類 | ミンクス・スタンプ・ジャーナル、ル・モンド・デ・フィラテリア |
| C F | 雑 | 第5回戦役記念絵葉書売捌状況写真、絵葉書の展覧会書類 |
| D | 為替・貯金・振替 | |
| D A | 一般 | 郵便貯金局振替貯金事務史、郵便為替制度沿革史資料、郵便為替御用留、貯金預法論告の大意、為替貯金事業史 |
| D B | 統計書 | 郵便為替貯金事業概要、郵便為替貯金事業統計図表 |
| D C | 雑書 | 郵便貯金案内、郵便貯金唱歌、郵便貯金奨励談 |
| D D | 逐次刊行物 | 郵貯時報、郵便貯金 |
| E | 簡易保険、郵便年金 | |

表1 郵政資料館の資料分類(図書)

| | | |
|-----|------------|---|
| E A | 一般 | 簡易保険事業史、生命保険事業ノ沿革 |
| E B | 統計書 | 簡易保険統計年報、簡易保険事業概要 |
| E C | 雑書 | 米国メトロポリタン生命保険会社保険体操ラジオ放送事業概要、国民保険体操講演集、健康相談所利用実話 |
| E D | 逐次刊行物 | 保険年金展望、簡保資金 |
| F | 電気通信 | |
| F A | 事業概要および事業史 | 日本最初の伝信機布告書、佐賀電信録、電信沿革略史、本邦電信資料、大日本帝国電信沿革史、電信電話事業史 |
| F B | 年鑑および統計書 | 電務年鑑、工務年鑑、電気通信年鑑、工務統計報告書 |
| F C | 業務一般 | 諸御用留、電信寮事務簿記録、電信線妨害取締布達、本寮達、工部省布達 |
| F D | 法規類集 | 横文電信表、和文電信表、電気通信法規集、電信における正午報辰規則 |
| F E | 雑書 | ペリー献上電信機実験之図、米国使節実験電信機図、女子電話使用の図、テレビジョン実験と電力節約の展覧会 |
| F F | 外国事情 | 電気万国公報、万国電信条約書 |
| F G | 公報 | 電気通信公報 |
| F H | 逐次刊行物 | 電気通信経営月報、電気通信 |
| F J | 有線工学 | 電話機使用問答、自動電話交換、写真電報 |
| F K | 無線関係 | 無線電信、国際無線電信会議復命書、日本無線史 |
| F L | 放送 | テレビジョン資料、ラジオ年鑑、聴取書統計要覧 |
| F M | 電信電話線路図 | 電信電話線路図 |
| F N | 電話番号簿 | 電話番号簿（明治40年～） |
| F O | 地方通信局 | 電話開通関係書類 |
| G | 地方郵政局 | |
| G A | 東京郵政局 | 東京郵便局報、東京郵政局報、東京通信業務一覧 |
| G B | 関東郵政局 | 関東郵政局報、栃木駅通公文書、横浜郵便局報 |
| G C | 信越郵政局 | 長野郵政局報、信越郵政局報、県庁御布達 |
| G D | 東海郵政局 | 名古屋郵政局報、東海郵政局報 |
| G E | 北陸郵政局 | 金沢郵政局報、北陸郵政局報、新湊郵便局沿革史 |
| G F | 近畿郵政局 | 大阪通信局報、大阪郵政局報、近畿郵政局報 |
| G G | 中国郵政局 | 広島郵政局報、中国郵政局報、赤間関通信管理局関係達書 |
| G H | 四国郵政局 | 松山郵政局報、四国郵政局報 |
| G J | 九州郵政局 | 熊本通信局報、熊本郵政局報、九州郵政局報、大分県庁達書、高橋善三郎日誌の通信関係事項抜粋、久住郵便局資料 |
| G K | 東北郵政局 | 仙台郵政局報、東北郵政局報、仙台鉄道郵便局局務概要 |
| G L | 北海道郵政局 | 札幌通信局報、札幌郵政局報、北海道郵政局報 |
| G M | 沖縄郵政管理事務所 | 沖縄郵政管理局報、琉球政府行政記録 |
| H | 書簡文 | |
| H A | 往来物 | 庭訓往来、自遺往来、農業往来、女筆手本、女萬籙古草紙、庭訓往来来諺解大成、年中時候往来、女今川梅花文庫、商売往来、明治文證大全 |
| H B | 一般 | 松葉楼叢書、手紙雑誌、明治女子消息文かきぶり、手紙講座 |
| L | 歴史 | |
| L | 歴史 | 三国通覧、和漢船用集、牧民金鑑、東講商人鑑、商用日本地図附録、嬉笑遊覧、大内裏図考証、古事類苑、東海道駅路の鈴、諸国道中金草鞋 |
| M | 電気 | |

表1 郵政資料館の資料分類（図書）

| | | |
|-------------|----------------|---|
| MA | 通信省刊行物 | 本邦における電気事業概況、電気試験所事務報告、電気事業要覧、電力評価審査委員会議事録 |
| MB | 民間会社等刊行物 | 電灯市営の十年、エレキテル図説、電気学会雑誌、平賀源内肖像、佐久間象山肖像、地震に関する佐久間象山書、電力国策に関する資料 |
| N 美術 | | |
| N | 美術 | 明治郵便錦絵、東海道五十三次（広重 保永堂版）、北斎道中画譜、北斎東海道五十三次画帳、東海道五十三次一覽、木曾街道六十九次、東海名所改正道中記、東海道絵巻、東海道改正道中記、東海道名所図会、江戸名所図会、絵本江戸土産、江戸図鑑綱目坤、東京開花名所、東京名所画譜、東京名勝図会、今切御関所之図 |
| P 法規類集 | | |
| P | 法規類集 | 太政官日誌、布告全書、太政官布告書、法規分類大全 |
| S 交通 | | |
| SA | 一般 | 浦々高札の写、伏見本陣図、郵便会社仕方御規則、日本交通図会、交通文化 |
| SB | 駅遞 | 駅遞志料（紀事編纂原稿、御伝馬方旧記、定飛脚問屋仲間仕方帳、定飛脚旧記、五郵便覧等）、五街道宿村大概帳、五街道取締書物類寄、五街道分間延絵図、旅行用心集、道中記、日本駅遞志、箱根古関所の図 |
| SC | 海運 | 大日本籌海全図、廻送会社蒸気船表、陸運元会社水運規則、日本海運図史、海事摘要 |
| SD | 灯台 | 工部統計志、航路標識管理所年報、航路標識便覧表、日本灯台表 |
| SE | 陸運 | 各地諸物貨運送賃銭表、陸運元会社関連資料、鉄道国有始末、内国通運社関連資料 |
| SF | 空路運輸 | 帝国飛行協会資料、航空年鑑、通信省航空局資料、中央航空研究所彙報、航空統計年報、主要各国民間航空輸送事業概要 |
| SG | 郵便創始以前の通信 | 旗振信号の沿革及仕方、江戸三度、飛脚の変遷、七里飛脚、三度飛脚の図、早馬の図 |
| SH | 外国事情 | 外国通信事略、交通史、朝鮮駅制集成 |
| SJ | 古文書 | 江戸六組飛脚仲間、尾州七里飛脚御用留、飛脚問屋京屋大細見、伝馬所助郷廃止布告、皇女和宮関連資料、浪花講資料 |
| W 前島・坂野遺品遺墨 | | |
| WA | 前島密遺品遺墨 | 梅の朽枝、紙幣製造御用留、自叙伝「行く路のしるし」自筆草稿、鴻爪痕関連自筆原稿、遺墨、まいにちひらがなしんぶんし、自筆遺稿、大久保書簡集 |
| WB | 坂野鉄次郎遺品遺墨 | 通信要録、画帖、坂野翁赤裸々集 |
| X ポスター | | |
| XA | 一般 | 郵便絵葉書展覧会、通信記念日通信文化展覧会 |
| XB | 郵便 | 郵便規則改正、年賀郵便、歳末贈答品小包、速達郵便 |
| XC | 切手 | 年賀切手、切手発行 |
| XD | 為替貯金・郵便貯金・郵便振替 | 郵便貯金の種類、愛の影に貯金の光、一銭を笑うものは一銭に泣く |
| XE | 簡易保険・郵便年金 | 災害に予告なく保険に後悔なし、安らかな老後、ラジオ体操五周年、健康相談と巡回看護 |
| XF | 電気通信 | 電話番号簿に広告募集、東京大阪間写真電報開始 |
| Y 外書 | | |
| Y | 外書 | 諸外国の郵政関係図書 |
| Z 雑書 | | |
| Z | 雑書 | お江戸尽し、善悪双六極楽道中図会、日々新聞、印刷局沿革録、日本印刷大観、国民保険体操 |

表1 郵政資料館の資料分類（図書）

写真資料 12,368点

| | |
|------|-----------------|
| A | 郵政関係 |
| AA | 法令規類・証・辞令類 |
| AB | 周知 |
| AC | 建物 |
| AD | 調印・記念祝典 |
| AE | 視察 |
| AF | 集会・行事 |
| AG | 博覧会・行事 |
| AH | 各種競技会 |
| AX | 外国郵便庁マーク |
| AZ | 雑 |
| B | 郵便事業 |
| BA A | ポスト |
| BA B | 集配 |
| BA C | 集配 |
| BA D | 服装 |
| BA E | 道順組立 |
| BA F | 私書箱と受箱 |
| BA A | 窓口 |
| BB B | 搬出入（運搬） |
| BB C | 取り揃え・消印押印 |
| BB D | 自動押印 |
| BB E | 郵袋 |
| BB F | 区分 |
| BC A | 運送 |
| BC B | 騎馬・人車・馬車 |
| BC C | 自動車 |
| BC D | 船舶 |
| BC E | 鉄道郵便車両 |
| BC F | 鉄郵「車外・車内作業」 |
| BC G | 航空 |
| BC H | 特殊 |
| BC J | 台湾の郵便 |
| BDA | 局舎・北海道・東北 |
| BDB | 局舎・信越 |
| BDC | 局舎・関東 |
| BDD | 局舎・東京 |
| BDE | 局舎・北陸・東海 |
| BDF | 局舎・近畿・中国 |
| BDG | 局舎・四国・九州・沖縄 |
| BEE | 軍事郵便・野戦局 |
| BEF | 自動発売機 |
| BEG | 各種看板 |
| BEH | 郵便旗 |
| BEJ | 線路図・地図 |
| BEK | 災害時・事故 |
| BEL | 手紙を書く・読む |
| BEM | 雑 |
| BXA | ポスト |
| BXB | 集配 |
| BXC | 郵便局窓口・局内作業 |
| BXD | 外国郵便局・局舎 |
| BXE | 運送 |
| BXF | 鉄道郵便 |
| BXG | 万国郵便連合 |
| BXH | 周知物図表ポスター等 |
| BXJ | 国別郵便関係 |
| BXK | 郵便受箱 |
| BXZ | その他 |
| BY | 絵（郵便現業絵図） |
| BZ | 雑 |
| C | 郵便切手、はがき |
| CA A | 日本切手 |
| CA B | 世界の切手 |
| CA C | 切手関係会合・行事 |
| CA D | 各種切手展 |
| CA E | 製造（印刷局・切手のり） |
| CA F | 郵便切手原画 |
| CA G | 郵便切手原画資料 |
| CA H | 返信切手券 |
| CBA | はがき |
| CB B | 絵はがき |
| CB C | 封皮 帯紙 |
| CB D | 外国はがき |
| CB E | エンタィア |
| CB F | 各種消印と使用例 |
| CB Z | その他 |
| D | 為替貯金 |
| DA | 書類・証書・通帳・原簿 |
| DB | 周知奨励 |
| DC | 建物（局舎）集合 |
| DD | 事務処理（窓口・貯金局・外務） |
| DE | 行事・競技会 |
| DF | 用品・器具 |

表1 郵政資料館の資料分類（写真）

| | |
|-------|-----------------|
| E | 保険年金 |
| E A | 書類・証書 |
| E B | 周知・奨励 |
| E C | 建物（局舎） |
| E D | 事務取扱（保険局・窓口） |
| E E | 会議・行事・競技 |
| E F | 資金の運用（保養施設） |
| H | 電気通信 |
| H A | 解説・周知（展覧会） |
| H B | 回線（線路）海底線 |
| H D | 行事（講習・競技） |
| H E | 視察・招待 |
| J | 電信 |
| J A A | 法規・図解統計 |
| J A B | 周知（錦絵・絵画）展覧会 |
| J A C | 講習会・競技会 |
| J A D | 視察・会合・行事 |
| J A E | 佐久間象山（日本電信記念公園） |
| J B A | 電信機 |
| J B B | 電信機操作 |
| J B C | 印刷電信機 |
| J B D | 走査器 |
| J B E | 付属機器 |
| J B F | 受付（窓口）配達 |
| J B G | 建物（窓口）配達 |
| J C | 建物（電信局） |
| J D | 電報用紙 |
| K | 電話 |
| K A A | 解説 |
| K A B | 周知 |
| K A C | 行事 |
| K A D | 通話 |
| K A E | 開通式 |
| K B A | 電話機 |
| K B B | 交換機 |
| K B C | 自動電話機 |
| K B D | 自動交換機 |
| K B E | 自動局設備 |
| K B F | 付属設備 |
| K B G | 公衆電話ボックス |
| K B X | 外国 |
| K C | 局舎（外景・内部） |
| L | 無線 |
| L A A | 図版 |
| L A B | 周知 |
| L A C | 行事 |
| L B A | 一般無線電信機 |
| L B B | 一般無線電信操作状況 |
| L B C | 船舶無線 |
| L B D | 航空無線 |
| L B E | 無線放送 |
| L B F | 無線放送（テレビジョン） |
| L C A | 無線電信局 |
| L L B | 放送局 |
| L X | 外国無線 |
| L Z | その他 |
| M | 電気 |
| M A A | 周知・展覧会 |
| M A B | 会議 |
| M A C | 行事・視察 |
| M B A | 発電機 |
| M B B | 発電所 |
| M B C | 変電所 |
| M B D | 電気の利用 |
| Q | 船舶 |
| Q A A | 図版 |
| Q A B | 行事 |
| Q A C | 船員の養成 |
| Q B A | 設計・造船 |
| Q B B | 船舶・造船・布設船 |
| Q B C | 漕船 |
| Q B D | 帆船 |
| Q C A | 灯台 |
| Q C B | 建物 |
| Q A | 外国船 |
| R | 航空 |
| R A A | 解説・図版 |
| R A B | 行事 |
| R A C | 飛行士養成所 |
| R B A | 各種飛行機 |
| R B B | グライダー・パラシュート |
| R C A | 建物・設備 |
| R C B | 航空写真 |
| S | 昔の交通・通信 |
| S A | 駅鈴 |
| S B | 通信（絵巻物・風俗） |

表1 郵政資料館の資料分類（写真）

| | | | |
|-----|-------------|-----|------------------|
| SC | 飛脚（錦絵・読み書き） | WBC | 前島翁・銅像・胸像 |
| SD | 道中記（風俗） | WBD | 遺品・遺墨 |
| SE | 日本交通図会 | WBE | 各種行事 |
| SF | 旅行具（手形・状箱） | WBZ | その他 |
| SG | 書状・帳簿・広告 | WCA | 坂野記念館外景・内部・遺品・遺墨 |
| SX | 外国の通信（飛脚） | WCB | 坂野鉄次郎肖像 |
| W | 博物館 | WCC | 坂野記念館行事 |
| WAA | 博物館外景 | WCZ | その他雑類 |
| WAB | 常設展示場 | WD | 久住展示室 |
| WAC | 逡信博物館長 | WEA | 樋畑雪湖翁関係肖像・その他 |
| WAD | 逡信博物館 | WEB | 樋畑雪湖翁関係遺品・遺墨 |
| WAE | 博物館各種行事 | Z | 肖像 |
| WAF | 見学 | ZAA | 肖像 |
| WAH | 博物館出版物・特別展等 | ZAB | 次官・参与官・参事官 |
| WAJ | 博物館施設 | ZAC | 局長・課長・秘書官 |
| WBA | 前島記念館外景内部 | ZAD | 発明及び功労者 |
| WBB | 前島翁・仲子夫人肖像 | ZAE | 職員 |

| | |
|------|---|
| 日本切手 | 郵便創業時に発行された竜文切手から現在発行されている切手まで約6,500種を発行年順に管理 |
| 外国切手 | 既に存在していない国も含めて255カ国約32万種を国別、発行年順に管理 |

表1 郵政資料館の資料分類（写真・日本切手・外国切手）

| 作 者 | 発 行 名 称 | 意 匠 | 発行年月日 |
|--------|-----------------|-------------------|------------|
| 棟方志功 | 放送50年記念 | 観聞頌 | 1975/03/20 |
| 佃公彦 | ラジオ体操50年記念 | ラジオ体操50年記念シンボルマーク | 1978/08/01 |
| 永田萌 | 国際花と緑の博覧会寄付金付 | 花気球 | 1989/06/01 |
| 永田萌 | 国際花と緑の博覧会記念寄付金付 | 花と妖精 | 1990/03/30 |
| 黒井健 | 国際花と緑の博覧会記念 | 樹 | 1990/03/30 |
| 黒井健 | 国連防災世界会議記念 | 水辺の家 | 1994/05/23 |
| 村上勉 | 環境の日制定記念 | 生きものの環 | 1994/06/03 |
| やなせたかし | 第50回児童福祉週間記念 | おひさまとなかよし | 1996/05/01 |
| 永田萌 | ふみの日 | 妖精と手紙 | 1982/07/23 |
| 永田萌 | ふみの日 | 妖精からの便り | 1983/07/23 |
| 永田萌 | ふみの日 | 花と手紙 | 1984/07/23 |
| 村上勉 | ふみの日 | 少年と手紙 | 1985/07/23 |
| 村上勉 | ふみの日 | 少女と手紙 | 1986/07/23 |
| 村上勉 | ふみの日切手帳 (表紙) | メルヘンの世界 | 1986/08/23 |
| 村上勉 | ふみの日小型シート | (夜空) | 1986/09/20 |
| 村上勉 | ふみの日 | ぞうと手紙 | 1987/07/23 |
| 村上勉 | ふみの日ゆうペーン (表紙) | ねこの母子 | 1987/07/23 |
| 村上勉 | ふみの日小型シート | (大きな木) | 1987/09/21 |
| 村上勉 | ふみの日 | 猫と手紙 | 1988/07/23 |
| 永田萌 | ふみの日 | 妖精と手紙 | 1988/07/23 |
| 黒井健 | ふみの日 | お母さんと手紙 | 1989/07/21 |
| 永田萌 | ふみの日 | はばたく想い | 1990/07/23 |
| 永田萌 | ふみの日 | 夢の草原 | 1990/07/23 |
| 永田萌 | ふみの日ゆうペーン (表紙) | (夢の草原) | 1990/07/23 |
| 永田萌 | ふみの日 | あさがおだより | 1991/07/23 |
| 永田萌 | ふみの日 | 虹色の地平線 | 1991/07/23 |
| 葉祥明 | ふみの日 | 犬と小鳥のてがみ | 1992/07/23 |
| 葉祥明 | ふみの日 | 木陰の子犬と手紙 | 1993/07/23 |
| やなせたかし | ふみの日 | 飛べ手紙 | 1993/07/23 |
| やなせたかし | ふみの日ゆうペーン (表紙) | (飛べ手紙) | 1993/07/23 |
| やなせたかし | ふみの日 | 手紙の船 | 1994/07/22 |
| やなせたかし | ふみの日 | 手紙の家 | 1995/07/21 |
| 加藤栄三 | 魚介シリーズ | いせえび | 1966/01/31 |
| 堅山南風 | 魚介シリーズ | こい | 1966/02/28 |
| 前田青邨 | 魚介シリーズ | まだい | 1966/03/25 |
| 橋本明治 | 魚介シリーズ | かつお | 1966/05/16 |
| 杉山寧 | 魚介シリーズ | あゆ | 1966/06/01 |
| 吉岡堅二 | 魚介シリーズ | うなぎ | 1966/08/01 |
| 上村松篁 | 魚介シリーズ | まさば | 1966/09/01 |
| 森田沙伊 | 魚介シリーズ | さけ | 1966/12/01 |
| 奥村土牛 | 魚介シリーズ | ぶり | 1967/02/10 |
| 山田申吾 | 魚介シリーズ | とらふぐ | 1967/03/10 |

表2 切手・はがき原画(切手)

| | | | |
|-------|--------------------|--------------|------------|
| 高山辰雄 | 魚介シリーズ | するめいか | 1967/06/30 |
| 山口蓬春 | 魚介シリーズ | さざえ | 1967/07/25 |
| 杉本健吉 | 昔ばなしシリーズ「花さかじじい」 | ここほれワンワン | 1973/11/20 |
| 杉本健吉 | 昔ばなしシリーズ「花さかじじい」 | おばあさんともちつき | 1973/11/20 |
| 杉本健吉 | 昔ばなしシリーズ「花さかじじい」 | 枯木に花をさかせましょう | 1973/11/20 |
| 堀文子 | 昔ばなしシリーズ「つる女房」 | 娘 | 1974/02/20 |
| 堀文子 | 昔ばなしシリーズ「つる女房」 | 機織 | 1974/02/20 |
| 堀文子 | 昔ばなしシリーズ「つる女房」 | つる | 1974/02/20 |
| 滝平二郎 | 昔ばなしシリーズ「一寸法師」 | 舟 | 1974/06/10 |
| 滝平二郎 | 昔ばなしシリーズ「一寸法師」 | 鬼 | 1974/06/10 |
| 滝平二郎 | 昔ばなしシリーズ「一寸法師」 | 小槌 | 1974/06/10 |
| 森田曠平 | 昔ばなしシリーズ「かぐや姫」 | 竹 | 1974/07/29 |
| 森田曠平 | 昔ばなしシリーズ「かぐや姫」 | 姫 | 1974/07/29 |
| 森田曠平 | 昔ばなしシリーズ「かぐや姫」 | 月へ | 1974/07/29 |
| 片岡球子 | 昔ばなしシリーズ「こぶとりじいさん」 | 鳥居 | 1974/09/09 |
| 片岡球子 | 昔ばなしシリーズ「こぶとりじいさん」 | 踊 | 1974/09/09 |
| 片岡球子 | 昔ばなしシリーズ「こぶとりじいさん」 | こぶ二つ | 1974/09/09 |
| 大山忠作 | 昔ばなしシリーズ「浦島太郎」 | 亀 | 1975/01/28 |
| 大山忠作 | 昔ばなしシリーズ「浦島太郎」 | 竜宮 | 1975/01/28 |
| 大山忠作 | 昔ばなしシリーズ「浦島太郎」 | 玉手箱 | 1975/01/28 |
| 黒崎義介 | 昔ばなしシリーズ「ねずみの浄土」 | 出会い | 1975/04/15 |
| 黒崎義介 | 昔ばなしシリーズ「ねずみの浄土」 | 浄土 | 1975/04/15 |
| 黒崎義介 | 昔ばなしシリーズ「ねずみの浄土」 | もてなし | 1975/04/15 |
| 谷内六郎 | 日本の歌シリーズ第1集 | 夕やけこやけ | 1979/08/24 |
| 滝平二郎 | 日本の歌シリーズ第1集 | 荒城の月 | 1979/08/24 |
| 堀文子 | 日本の歌シリーズ第2集 | もみじ | 1979/11/26 |
| 村上勉 | 日本の歌シリーズ第2集 | ふるさと | 1979/11/26 |
| 石川滋彦 | 日本の歌シリーズ第3集 | 冬げしき | 1980/01/28 |
| 白旗史朗※ | 日本の歌シリーズ第3集（下図 写真） | ふじ山 | 1980/01/28 |
| 安野光雅 | 日本の歌シリーズ第4集 | 春の小川 | 1980/03/21 |
| 森田曠平 | 日本の歌シリーズ第4集 | さくらさくら | 1980/03/21 |
| 谷内六郎 | 日本の歌シリーズ第5集 | うみ | 1980/04/28 |
| 堀文子 | 日本の歌シリーズ第5集 | おぼろ月夜 | 1980/04/28 |
| 渡辺義雄※ | 日本の歌シリーズ第6集（下図 写真） | 日のまる | 1980/06/16 |
| 安野光雅 | 日本の歌シリーズ第6集 | 夏の思い出 | 1980/06/16 |
| 根岸敬 | 日本の歌シリーズ第7集 | 赤とんぼ | 1980/09/18 |
| 林静一 | 日本の歌シリーズ第7集 | 浜辺の歌 | 1980/09/18 |
| 米倉斉加年 | 日本の歌シリーズ第8集 | 椰子の実 | 1981/02/09 |
| 森田曠平 | 日本の歌シリーズ第8集 | 子もり歌 | 1981/02/09 |
| 村上勉 | 日本の歌シリーズ第9集 | 春がきた | 1981/03/10 |
| 林静一 | 日本の歌シリーズ第9集 | 花 | 1981/03/10 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第1集 | 大浦天主堂 | 1981/08/22 |

※ 白旗史朗、渡辺義雄は写真家

表2 切手・はがき原画（切手）

| | | | |
|-------|----------------|------------|------------|
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第1集 | 表慶館 | 1981/08/22 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第2集 | 旧開智学校校舎 | 1981/11/09 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第2集 | 同志社礼拝堂 | 1981/11/09 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第3集 | 聖ヨハネ教会堂 | 1982/01/29 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第3集 | 旧札幌農学校演武場 | 1982/01/29 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第4集 | 旧日本銀行京都支店 | 1982/03/10 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第4集 | 旧済生館本館 | 1982/03/10 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第5集 | 尾山神社神門 | 1982/06/12 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第5集 | 旧岩崎家住宅 | 1982/06/12 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第6集 | 北海道庁旧本庁舎 | 1982/09/10 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第6集 | 旧西郷従道住宅 | 1982/09/10 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第7集 | 旧睦沢学校校舎 | 1983/02/15 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第7集 | 桜宮公会堂玄関 | 1983/02/15 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第8集 | 豊平館 | 1983/06/23 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第8集 | 旧グラバー住宅 | 1983/06/23 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第9集 | 旧五十九銀行本店本館 | 1983/08/15 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第9集 | 旧学習院初等科正堂 | 1983/08/15 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第10集 | 日本銀行本店本館 | 1984/02/16 |
| 近岡善次郎 | 近代洋風建築シリーズ第10集 | 旧ハンター住宅 | 1984/02/16 |
| 麻田鷹司 | 奥の細道シリーズ第1集 | 華厳 | 1987/02/26 |
| 江守若菜 | 奥の細道シリーズ第2集 | ほととぎす | 1987/06/23 |
| 田淵俊夫 | 奥の細道シリーズ第2集 | 柳陰 | 1987/06/23 |
| 青木義照 | 奥の細道シリーズ第3集 | 栗の花 | 1987/08/25 |
| 森田曠平 | 奥の細道シリーズ第3集 | 早苗 | 1987/08/25 |
| 江守若菜 | 奥の細道シリーズ第4集 | あやめ草 | 1988/01/23 |
| 森田曠平 | 奥の細道シリーズ第4集 | 懐古 | 1988/01/23 |
| 松尾敏男 | 奥の細道シリーズ第5集 | 紅花 | 1988/03/26 |
| 後藤純男 | 奥の細道シリーズ第5集 | 山寺 | 1988/03/26 |
| 堀文子 | 奥の細道シリーズ第6集 | 最上川 | 1988/05/30 |
| 今野忠一 | 奥の細道シリーズ第6集 | 月山 | 1988/05/30 |
| 松尾敏男 | 奥の細道シリーズ第7集 | ねぶの花 | 1988/08/23 |
| 青木義照 | 奥の細道シリーズ第7集 | 荒海 | 1988/08/23 |
| 大野俣嵩 | 奥の細道シリーズ第8集 | わせの香 | 1988/11/11 |
| 中路融人 | 奥の細道シリーズ第8集 | 赤映 | 1988/11/11 |
| 今野忠一 | 奥の細道シリーズ第9集 | 那谷寺 | 1989/02/13 |
| 後藤純男 | 奥の細道シリーズ第9集 | 月光 | 1989/02/13 |
| 田淵俊夫 | 奥の細道シリーズ第10集 | 浜の秋 | 1989/05/12 |
| 大野俣嵩 | 奥の細道シリーズ第10集 | 蛤 | 1989/05/12 |

はがき原画

| 作者 | 発行名称 | 意匠 | 発行年月日 |
|------|-------------------|-------|------------|
| 黒井健 | 絵入り国際郵便葉書(裏面) | 夕暮れの港 | 1993/11/22 |
| 加山又造 | 昭和58年用絵入り年賀葉書(裏面) | 飛翔 | 1982/11/05 |

表2 切手・はがき原画(切手・はがき)

| | | | |
|---------------------------|------------------------|-----------|------------|
| 堀文子 | 昭和58年用絵入り年賀葉書(裏面) | 春の籠 | 1982/11/05 |
| 森田曠平 | 昭和58年用絵入り年賀葉書(裏面) | 献寿 | 1982/11/05 |
| 小倉遊亀 | 昭和59年用絵入り年賀葉書(裏面) | 紅梅 | 1983/11/04 |
| 山口華楊 | 昭和59年用絵入り年賀葉書(裏面) | 鳴鶴 | 1983/11/04 |
| 上村松篁 | 昭和60年用絵入り年賀葉書(裏面) | 紅梅 | 1984/11/05 |
| 佐藤太清 | 昭和60年用絵入り年賀葉書(裏面) | 鴛鴦 | 1984/11/05 |
| 片岡球子 | 昭和61年用絵入り年賀葉書(裏面) | 富士 | 1985/11/05 |
| 堀文子 | 昭和61年用絵入り年賀葉書(裏面) | 献花 | 1985/11/05 |
| 松尾敏男 | 昭和62年用絵入り年賀葉書(裏面) | 寒牡丹 | 1986/11/05 |
| 上村松篁 | 昭和62年用絵入り年賀葉書(裏面) | うさぎと梅 | 1986/11/05 |
| 田淵俊夫 | 昭和63年用絵入り年賀葉書(裏面) | わか松 | 1987/11/05 |
| 杉本健吉 | 昭和63年用絵入り年賀葉書(裏面) | 梅下麗人 | 1987/11/05 |
| 竹山博 | 平成元年用絵入り年賀葉書(裏面) | 竹に小鳥 | 1988/11/05 |
| 岡信孝 | 平成元年用絵入り年賀葉書(裏面) | 福寿草 | 1988/11/05 |
| 野々内良樹 | 平成2年用絵入り年賀葉書(裏面) | 千両の紅ひわ | 1989/11/02 |
| 牧進 | 平成2年用絵入り年賀葉書(裏面) | 実南天 | 1989/11/02 |
| 佐藤太清 | 平成3年用絵入り年賀葉書(裏面) | 瑞鶴 | 1990/11/01 |
| 後藤純男 | 平成3年用絵入り年賀葉書(裏面) | 初雪 | 1990/11/01 |
| 吉田善彦 | 平成4年用絵入り年賀葉書(裏面) | 富貴 | 1991/11/01 |
| 加倉井和夫 | 平成5年用絵入り年賀葉書(裏面) | 朝陽 | 1992/11/02 |
| 西村昭二郎 | 平成7年用絵入り年賀葉書(裏面) | 紅梅にシジュウカラ | 1994/11/01 |
| 田淵俊夫 | 平成7年用絵入り年賀葉書(裏面) | 金采 | 1994/11/01 |
| 上村淳之 | 平成8年用絵入り年賀葉書(裏面) | 瑠璃鶺鴒 | 1995/11/01 |
| 岡信孝 | 平成8年用絵入り年賀葉書(裏面) | 藪柑子 | 1995/11/01 |
| 郷倉和子 | 平成9年用絵入り年賀葉書(裏面) | 若木の紅梅 | 1996/11/01 |
| 加山又造 | 平成10年用絵入り年賀葉書(裏面) | 初雪 | 1997/10/31 |
| 大山忠作 | 平成10年用絵入り年賀葉書(裏面) | 千両 | 1997/10/31 |
| 松尾敏男 | 平成11年用絵入り年賀葉書(裏面) | うさぎ | 1998/11/02 |
| 西村昭二郎 | 平成11年用絵入り年賀葉書(裏面) | 万両とホオジロ | 1998/11/02 |
| 原田泰治 | 昭和59年用絵入り年賀葉書(地方版)(裏面) | 雪の山村 | 1983/11/04 |
| 葉祥明 | 平成3年用暑中見舞葉書 | 高原の風 | 1991/06/03 |
| 葉祥明 | 平成3年用暑中見舞葉書 | 潮風 | 1991/06/03 |
| 石井柏亭 | 昭和25年用暑中見舞葉書(裏面) | 湖畔風景 | 1950/06/15 |
| 川島理一郎 | 昭和25年用暑中見舞葉書(裏面) | 蘭花 | 1950/06/15 |
| 川端龍子 | 昭和25年用暑中見舞葉書(裏面) | 海辺の貝 | 1950/06/15 |
| 宮本三郎 | 昭和25年用暑中見舞葉書(裏面) | 金魚鉢 | 1950/06/15 |
| 吉岡堅二 | 昭和25年用暑中見舞葉書(裏面) | とんぼ | 1950/06/15 |
| 和田三造(指導) 大槻武雄・ 矢嶋様子 | 昭和27年用暑中見舞葉書(裏面) | 朝顔模様 | 1952/07/01 |
| 和田三造(指導) 大槻武雄・ 矢嶋様子 | 昭和27年用暑中見舞葉書(裏面) | 墨流し模様 | 1952/07/01 |
| 中川一政 | 昭和28年用暑中見舞葉書(裏面) | かれい | 1953/07/01 |

表2 切手・はがき原画(はがき)

| | | | |
|--------|---------------------|-----------------|------------|
| 中川一政 | 昭和28年用暑中見舞葉書(裏面) | かえる | 1953/07/01 |
| 清水崑 | 昭和29年用暑中見舞葉書(裏面) | 童女かっぱ | 1954/07/01 |
| 山田申吾 | 昭和35年用暑中見舞葉書(裏面) | しらかんば | 1960/07/01 |
| 山田申吾 | 昭和35年用暑中見舞葉書(裏面) | つゆくさ | 1960/07/01 |
| 加藤栄三 | 昭和36年用暑中見舞葉書(裏面) | ききょう | 1961/07/01 |
| 加藤栄三 | 昭和36年用暑中見舞葉書(裏面) | う | 1961/07/01 |
| 野間仁根 | 昭和37年用暑中見舞葉書(裏面) | おおまつよいぐさ | 1962/07/01 |
| 野間仁根 | 昭和37年用暑中見舞葉書(裏面) | くぎきりぎりすとせすじつゆむし | 1962/07/01 |
| 橋本明治 | 昭和38年用暑中見舞葉書(裏面) | てっせん | 1963/07/01 |
| 橋本明治 | 昭和38年用暑中見舞葉書(裏面) | けしのみ | 1963/07/01 |
| 前田青邨 | 昭和39年用暑中見舞葉書(裏面) | う | 1964/07/01 |
| 前田青邨 | 昭和39年用暑中見舞葉書(裏面) | なす | 1964/07/01 |
| 橋本興家 | 昭和40年用暑中見舞葉書(裏面) | 山 | 1965/07/01 |
| 橋本興家 | 昭和40年用暑中見舞葉書(裏面) | 海 | 1965/07/01 |
| 森田元子 | 昭和41年用暑中見舞葉書(裏面) | ひまわり | 1966/07/01 |
| 森田元子 | 昭和41年用暑中見舞葉書(裏面) | いちじく | 1966/07/01 |
| 山名文夫 | 昭和42年用暑中見舞葉書(裏面) | 水 | 1967/07/01 |
| 山名文夫 | 昭和42年用暑中見舞葉書(裏面) | 風 | 1967/07/01 |
| 奥村土牛 | 昭和43年用暑中見舞葉書(裏面) | きんぎょ | 1968/06/25 |
| 奥村土牛 | 昭和43年用暑中見舞葉書(裏面) | あさがお | 1968/06/25 |
| 鈴木信太郎 | 昭和44年用暑中見舞葉書(裏面) | あじさい | 1969/07/01 |
| 鈴木信太郎 | 昭和44年用暑中見舞葉書(裏面) | ききょう | 1969/07/01 |
| 横山操 | 昭和45年用暑中見舞葉書(裏面) | 夕涼し | 1970/07/01 |
| 横山操 | 昭和45年用暑中見舞葉書(裏面) | 波 | 1970/07/01 |
| 関野準一郎 | 昭和46年用暑中見舞葉書(裏面) | 水鳥 | 1971/06/28 |
| 関野準一郎 | 昭和46年用暑中見舞葉書(裏面) | 氷水屋 | 1971/06/28 |
| 香月泰男 | 昭和48年用暑中見舞葉書(裏面) | いぐさ | 1973/07/03 |
| 香月泰男 | 昭和48年用暑中見舞葉書(裏面) | 海 | 1973/07/03 |
| やなせたかし | 平成3年はあとめーる | 心に太陽を | 1991/09/02 |
| やなせたかし | 平成4年はあとめーる | 人生に花を | 1992/09/01 |
| 黒井健 | 平成5年はあとめーる | おてがみ書いた | 1993/09/01 |
| 黒井健 | 平成5年はあとめーる | かわいい手紙 | 1993/09/01 |
| 黒井健 | 平成6年はあとめーる | 野原の手紙 | 1994/09/01 |
| 黒井健 | 平成6年はあとめーる | 元気ですか | 1994/09/01 |
| 村上勉 | 平成7年はあとめーる(原画(兼下図)) | おじいちゃんお元気ですか | 1995/09/01 |
| 村上勉 | 平成7年はあとめーる(原画(兼下図)) | おばあちゃんお元気ですか | 1995/09/01 |
| 村上勉 | 平成8年はあとめーる | コオロギとカキ | 1996/09/02 |
| 村上勉 | 平成8年はあとめーる | 銀灰色の傘 | 1996/09/02 |
| やなせたかし | 平成4年はあとめーる(表面) | (元気な子共たち) | 1992/09/01 |
| 黒井健 | 平成5年はあとめーる(表面) | うさぎと手紙 | 1993/09/01 |
| 黒井健 | 平成5年はあとめーる(表面) | こども達と手紙 | 1993/09/01 |
| 黒井健 | 平成6年はあとめーる(表面) | 自転車 | 1994/09/01 |
| 黒井健 | 平成6年はあとめーる(原画(表面)) | ねずみ | 1994/09/01 |

表2 切手・はがき原画(はがき)

| | | | |
|-------|---------------------|-----------------|------------|
| 村上勉 | 平成7年はあとめーる（原画（表面）） | 女の子 | 1995/09/01 |
| 村上勉 | 平成7年はあとめーる（原画（表面）） | 男の子 | 1995/09/01 |
| 村上勉 | 平成8年はあとめーる（原画（表面）） | 秋雨だより | 1996/09/02 |
| 村上勉 | 平成8年はあとめーる（原画（表面）） | 葡萄とキリギリス | 1996/09/02 |
| 小山正太郎 | 第四回戦役記念郵便繪葉書 旅順口ノ部 | 水師營ニ於クル彼我司令官の會見 | 1905/10/15 |
| 小代為重 | 大禮記念繪葉書 | 即位禮紫宸殿御式場之圖 | 1915/11/10 |
| 吉川靈華 | 大禮記念繪葉書 | 太平樂之圖 | 1915/11/10 |
| 鍋木清方 | 平和記念繪葉書 | 少年少女と鳩 | 1919/07/01 |
| 南薫造 | 平和記念繪葉書 | 収穫の図 | 1919/07/01 |
| 結城素明 | 大禮記念繪葉書 | 五節舞之圖 | 1928/11/10 |
| 岡田三郎助 | 大禮記念繪葉書 | 承明門ヨリ紫宸殿ノ儀ヲ望ム圖 | 1928/11/10 |
| 小磯良平 | 大東亜戦争記念報国葉書 第一輯 | 香港黄泥涌高射砲陣地奪取 | 1943/12/08 |
| 宮本三郎 | 大東亜戦争記念報国葉書 第一輯 | シンガポール英軍の降伏 | 1943/12/08 |
| 川端龍子 | 日本国憲法公布記念 日本繪葉書 第一輯 | 不盡 | 1946/12/27 |
| 藤田嗣治 | 日本国憲法公布記念 日本繪葉書 第一輯 | 迎日 | 1946/12/27 |
| 石井柏亭 | 日本国憲法公布記念 日本繪葉書 第一輯 | 平和 | 1946/12/27 |
| 上村松園 | 不発行繪葉書 | 融 | |
| 川合玉堂 | 不発行繪葉書 | 上高地 | |
| 宮本三郎 | 不発行繪葉書 | 編もの | |

表2 切手・はがき原画（はがき）

| 作者 | 名称 | 制作年代 | | | |
|--------|--------|------|--------|----------|------|
| 平福 百穂 | 竹林の隠者 | 1924 | 松林 桂月 | ぶどう | 1940 |
| 山村 耕花 | 金魚 | 1924 | 野田 九浦 | 網打 | 1941 |
| 山内 多門 | 山水 | 1925 | 奥村 土牛 | 柿 | 1942 |
| 荒木 十畝 | 花鳥 | 1925 | 堂本 印象 | 百合と薊 | 1943 |
| 竹内 栖鳳 | 金魚 | 1926 | 川崎 小虎 | ばら | 1943 |
| 竹内 栖鳳 | あやめ | 1926 | 田中 咄哉州 | 毒だみと蛙 | 1945 |
| 小杉 未醒 | ざくろ | 1927 | 堂本 印象 | 柳につばめ | 1946 |
| 石井 柏亭 | 百合 | 1927 | 木村 荘八 | つばき | 1948 |
| 福田 平八郎 | 川蝉 | 1928 | 高間 惣七 | 縞ひよ | 1949 |
| 福田 平八郎 | 金魚 | 1928 | 山口 華揚 | せきれい | 1950 |
| 長野 草風 | 甘草 | 1929 | 鴨下 晁湖 | 百合 | 1953 |
| 長野 草風 | 撫子と桔梗 | 1929 | 西山 英雄 | 縞あしと赤とんぼ | 1955 |
| 小室 翠雲 | 一瞬千里 | 1930 | 樋口 富麻呂 | 熱帯魚 | 1955 |
| 小室 翠雲 | 一八 | 1930 | 浜田 台児 | 青栗 | 1956 |
| 山元 春拳 | 牡丹に黄金虫 | 1931 | 西山 翠嶂 | おもだか | 1957 |
| 山元 春拳 | 巖に松 | 1931 | 加藤 晨明 | 首夏 | 1957 |
| 榊原 紫峰 | 楓に鳩 | 1932 | 橋本 明治 | 桔梗 | 1959 |
| 榊原 紫峰 | 竹に雀 | 1932 | 奥村 厚一 | 波紋 | 1960 |
| 土田 麦僊 | 鮎 | 1933 | 松林 桂月 | あじさい | 1962 |
| 土田 麦僊 | あやめ | 1933 | 朝倉 攝 | 夏の太陽 | 1963 |
| 川合 玉堂 | 緑陰投網 | 1934 | 三岸 節子 | 花 | 1964 |
| 山口 蓬春 | うつぎ | 1934 | 小倉 遊亀 | 桔梗 | 1991 |
| 横山 大観 | 富士雪景 | 1935 | 上村 松皇 | 矢車草 | 1992 |
| 小林 古径 | 赤まんま | 1935 | 平山 郁夫 | 河畔涼風 | 1993 |
| 前田 青邨 | かささぎ | 1936 | 東山 魁夷 | 青富士 | 1994 |
| 富田 溪仙 | あじさい | 1936 | 佐藤 太清 | 朝顔 | 1995 |
| 橋本 関雪 | 鶴 | 1937 | 高山 辰雄 | 濱邊 | 1996 |
| 川端 龍子 | おしどり | 1937 | 奥田 元宋 | 奥入瀬涼々 | 1997 |
| 西山 翠嶂 | 京洛春色 | 1938 | 片岡 珠子 | 桜花 | 1998 |
| 安田 靱彦 | 白百合 | 1939 | 加山 又造 | 初秋 | 1999 |
| | | | 大山 忠作 | 朝顔 | 2000 |

表3 簡易保険扇子原画

参考 郵政資料館発行図書(1974年以降)

[資料図録]

- No. 1 郵便差出箱(ポスト)のうつりかわり〈その1〉創業から明治30年まで
- No. 2 郵便差出箱(ポスト)のうつりかわり〈その2〉明治30年から昭和20年まで
- No. 3 郵便差出箱(ポスト)のうつりかわり〈その3〉昭和20年から現在まで
- No. 4 郵便貯金通帳のうつりかわり(通常郵便貯金)
- No. 5 図書資料(その1)郵便決議簿、駅通明鑑、諸達綴、法規分類大全、中外郵便週報
- No. 6 図書資料(その2)東京日々新聞、駅通局報
- No. 7 図書資料(その3)郵便創業の太政官布告・各地時間賃銭表・明治6年郵便規則等
- No. 8 図書資料(その4)明治6年内国郵便税之定・郵便規則等
- No. 9 図書資料(その5)明治7年日本帝国郵便規則・郵便交換条約等
- No. 10 図書資料(その6)明治7年郵便為替取扱い役所地名表・郵便為替証書雛形等
- No. 11 図書資料(その7)明治8年英文外国郵便税表・郵便規則及罰則等
- No. 12 図書資料(その8)明治9年英文外国郵便税表・郵便規則及罰則等
- No. 13 図書資料(その9)明治11年貯金預り規則抄録、明治15年英文郵便税表等
- No. 14 図書資料(その10)明治15年郵便条例、明治16年郵便心得等
- No. 15 図書資料(その11)明治17年郵便心得摘要、明治19年現行駅通法令類集等
- No. 16 図書資料(その12)明治21年郵便条約類纂、明治23年現行郵便電信法令索閲要録等
- No. 17 郵便物の輸送(その1)郵便行李、郵便御用絵符、明治5年郵便線路図等
- No. 18 郵便物の輸送(その2)郵便証印記、明治5～7年郵便線路図等
- No. 19 郵便物の輸送(その3)大阪郵便役所写真、東海道駅傍村名等

- No. 20 郵便物の輸送（その4）郵便法説諭振、郵便かばん、明治8年郵便線路図等
 No. 21 郵便物の輸送（その5）書状集箱、明治8～9年郵便線路図等
 No. 22 郵便物の輸送（その6）横浜郵便役所・横浜郵便局、明治8～9年郵便線路図等
 No. 23 郵便物の輸送（その7）大阪以西郵便賃表、エンタイア等
 No. 24 郵便物の輸送（その8）蒸気車と郵便物の輸送、エンタイア等
 No. 25 郵便物の輸送（その9）東海道筋の郵便取扱い、エンタイア等
 No. 26 郵便物の輸送（その10）郵便規則改正、切手売り捌き関係記録、福井県郵便取開の儀等
 No. 27 郵便物の輸送（その11）明治4年の郵便取扱い方法、エンタイア等
 No. 28 郵便物の輸送（その12）東京府下市中往復郵便、エンタイア等
 No. 29 郵便物の輸送（その13）鉄道による運送、エンタイア等
 No. 30 前島密生誕150年記念特集号
 No. 31 郵便物の輸送（その14）特殊通信日附印 船による郵便物の輸送
 No. 32 郵便物の輸送（その15）特殊通信日附印 一般乗合馬車による郵便物の輸送
 No. 33 郵便物の輸送（その16）特殊通信日附印 郵便馬車による郵便物の輸送
 No. 34 郵便物の輸送（その17）特殊通信日附印 自転車の使用、分館展示資料
 No. 35 郵便物の輸送（その18）特殊通信日附印 自動車による郵便物の輸送
 No. 36 郵便物の輸送（その19）特殊通信日附印 飛行機による郵便物の輸送
 No. 37 郵便物の輸送（その20）郵便物輸送のあゆみ
 No. 38 特集 諸外国の郵便ポスト〈世界の街角から〉
 No. 39 郵便ポストの移り変わり〈その1〉創業時から昭和初期まで
 No. 40 郵便ポストの移り変わり〈その2〉戦時中から現在まで
 No. 41 郵便ポストの移り変わり〈その3〉掛箱
 No. 42 東海道五十三次 初代広重作保永堂版全55枚
 No. 43 一明治の郵便外務員一制服の移り変わり〈その1〉
 No. 44 一明治の郵便外務員一制服の移り変わり〈その2〉
 No. 45 一大正・昭和の郵便外務員一制服の移り変わり〈その1〉
 No. 46 一大正・昭和の郵便外務員一制服の移り変わり〈その2〉
 No. 47 一大正・昭和の郵便外務員一制服の移り変わり〈その3〉
 No. 48 一大正・昭和の郵便外務員一制服の移り変わり〈その4〉
 No. 49 街道往来 江戸・明治の錦絵集 江戸から明治にかけての交通関係錦絵
 No. 50 モダニズムの時代と郵政ポスター 大正・昭和初期の郵政ポスター
 No. 51 三代広重の錦絵と郵便 三代広重の描いた郵便錦絵集
 No. 52 日本切手の20世紀 20世紀の貴重な日本切手に関する資料集
 No. 53 郵便事業の創始者 前島密の人生と業績 前島密一代記
 No. 54 江戸開府400年記念特別展「江戸東京独案内」展示資料集
 No. 55 魅せられる扇面画の世界（通信総合博物館所蔵）
 No. 56 前島記念館資料集
 No. 欠 日本郵政グループ発足記念展図録 第一部：郵便錦絵展 「明治の新しい風」
 No. 57 日本郵政グループ発足記念展図録 第二部：扇子原画展 「麗しく華ひらく」
 No. 58 日本郵政グループ発足記念展図録 第三部：切手原画展 「ふみをかざるひとひらの美」

〔研究調査報告書〕

- 郵政省通信博物館資料図録別冊 1 前島密にあてた大久保利通書簡集
 郵政省通信博物館資料図録別冊 2 日本郵便の父前島密遺墨集
 郵政省通信博物館資料図録別冊 3 静岡県駅逓御用留 明治7年（その1）
 郵政省通信博物館資料図録別冊 4 静岡県駅逓御用留 明治7年（その2）
 郵政省郵政研究所附属資料館研究調査報告 1 郵便創業時の記録 赤坂郵便御用取扱所史料
 郵政省郵政研究所附属資料館研究調査報告 2 郵便創業時の年表 駅逓紀事編纂原稿
 郵政省郵政研究所附属資料館研究調査報告 3 郵便創業時の起案文書 正院本省郵便決議簿第弍号
 郵政省郵政研究所附属資料館研究調査報告 4 郵便創業前の記録 袋井郵便御用取扱所史料（その1）
 郵政省郵政研究所附属資料館研究調査報告 5 郵便創業時の記録 袋井郵便御用取扱所史料（その2）
 郵政省郵政研究所附属資料館研究調査報告 6 郵便創業時の記録 全国実施時の郵便御用取扱所
 郵政省郵政研究所附属資料館研究調査報告 7 郵便創業期の記録 郵便切手類沿革志
 総務省郵政研究所電気通信共同研究報告 黎明期の通信に関する調査研究報告書

（いのうえ たくろう）日本郵政株式会社 郵政資料館 資料専門員